

青森県獣医師会報

No.206

2026

目 次

〔定時総会〕

公益社団法人青森県獣医師会第78回定時総会報告	事務局	1
-------------------------------	-----	---

〔資料〕

青森県における監視伝染病発生状況	青森県農林水産部畜産課	6
青森県における食中毒発生状況	青森県健康医療福祉部保健衛生課	7
世界獣医師会大会開催報告		
—— 31年ぶりの日本開催、天皇陛下のご臨席を仰いで ——	事務局	8
世界獣医師会大会 基調講演の概要		
～ One Healthアプローチによるパンデミック・インフルエンザの理解と対策～ ...	事務局	9
世界獣医師会大会を終えて	事務局	11
日本獣医師会雑誌が電子ジャーナル化されます	事務局	12
青森県獣医師会報発行回数の変更とホームページについてのお知らせ ...	事務局・会報部会	15
令和7年度青森県家畜保健衛生業績発表会が開催されました	事務局	18
「イカ水槽」「クラゲフォトスポット水槽」新設	青森県営浅虫水族館 三浦 弘毅	25
「青森県の海の生物カード」のお知らせ	青森県営浅虫水族館	27

〔臨床ノート〕

第289号 大腿骨における広範囲骨欠損を同種凍結保存骨によって再建した イヌの大腿骨癒合不全の1例		28
第290号 犬の細菌性膀胱炎を伴う膀胱内ポリープの1例		30

〔会員だより〕

仕事の色と職業の色 ～獣医師の色は、何色なのか～	色にこだわる人間	32
生成AIで遊んでみた	家保OB	35

〔新入会員紹介〕

獣医師会に入会された公務員獣医師の方々を紹介いたします		37
-----------------------------------	--	----

〔事務局だより〕

令和9年度 公益社団法人青森県獣医師会検査員募集	事務局	39
事務局等の日程	事務局	40
入会・異動の手続きについて（獣医師会支部事務局一覧）	事務局	43
「Thanks Buddy! 宣言 人と動物が共生する社会の実現」		44

〔編集後記〕		46
--------------	--	----

令和8年7月1日



公益社団法人

青 森 県 獣 医 師 会



日本獣医師会・獣医師倫理綱領

獣医師の誓い — 95 年宣言

人類は、地球の環境を保全し、他の生物と調和を図る責任をもっている。特に獣医師は、動物の健康に責任を有するとともに、人の健康についても密接に関わる役割を担っており、人と動物が共存できる環境を築く立場にある。

獣医師は、また、人々がうるおいのある豊かな生活を楽しむことができるよう、広範多岐にわたる専門領域において、社会の要請に積極的に応えていく必要がある。

獣医師は、このような重大な社会的使命を果たすことを誇りとし、自らの生活をも心豊かにすることができるよう、高い見識と厳正な態度で職務を遂行しなければならない。

以上の理念のもとに、私たち獣医師は、次のことを誓う。

- 1 動物の生命を尊重し、その健康と福祉に指導的な役割を果たすとともに、人の健康と福祉の増進に努める。
- 2 人と動物の絆（ヒューマン・アニマル・ボンド）を確立するとともに、平和な社会の発展と環境の保全に努める。
- 3 良識ある社会人としての人格と教養を一層高めて、専門職としてふさわしい言動を心がける。
- 4 獣医学の最新の知識の吸収と技術の研鑽、普及に励み、関連科学との交流を推進する。
- 5 相互の連携と協調を密にし、国際交流を推進して世界の獣医界の発展に努める。

公益社団法人青森県獣医師会第78回定時総会報告

事務局

令和8年6月10日（水）、午後1時から青森市“アップルパレス青森 ねぶたの間”において、第78回定時総会が開催されました。

また、昨年と同様に小谷知也青森県副知事が総会にご出席され、ご祝辞を賜りました。
定時総会の内容は次のとおりです。

【黙 祷】

ご逝去された会員に黙祷が捧げられました。

○三八支部（2名）

菊池 裕子 先生 山内 正孝 先生

○上十三支部（6名）

草野 和良 先生 小比類巻志朗 先生

橋本 良也 先生 森田 高司 先生

成田 浩志 先生 濱岡 隆文 先生

【称号記授与】

昨年度、名誉会員に推薦された2名に名誉会員称号記が会長から贈呈されました。

第114号 上十三支部 附田 彰二 先生

第115号 上十三支部 武藤顕一郎 先生

【会長挨拶】



小山田会長

本年4月に、東京国際フォーラムにおいて「第41回世界獣医師会大会」が開催され、開会式に天皇皇后両陛下、愛子内親王殿下のご臨席を賜りました。陛下は、「ワンヘルス」の理念

に触れられ、公衆衛生や動物福祉、環境保全など獣医師が担う役割について感謝と激励のお言葉を寄せられました。

また、天皇ご一家が基調講演を聴講されるお姿が報道され、獣医療への深いご理解が、国民に伝わる大変貴重な機会となりました。

さて、家畜衛生の分野ですが、韓国での口蹄疫やアフリカ豚熱の発生、国内での豚熱の感染に加え、去る4月に本県で鳥インフルエンザが発生し、官民一体となった新たな防疫活動が行われました。この体制こそが、畜産を守る鍵となると思います。これからも、本会は家畜衛生の向上に協力します。



司会：神 有紗

次に、食鳥検査事業ですが、食鳥検査の羽数は増加傾向にあり、地域経済の活性化という観点から喜ばしい動きです。今後とも、羽数増加に対応し精度の高い食鳥検査に努め公衆衛生の向上に寄与します。

少子高齢化や急激な人口減少の影響が犬の飼養頭数の減少に現れ、狂犬病予防注射の接種頭数が減少傾向にあることは極めて重大な課題です。自治体や動物愛護センターとの連携を強化し、マイクロチップ制度の普及推進や啓発活動を強化いたします。

また、近年、脅威となっている「重症熱性血小板減少症候群（SFTS）」などの動物由来感染症への対策、公衆衛生の最前線に立つ獣医師へのニーズは、一段と多様化しています。

私たちは、人・動物・環境の健康を一体的に守る「ワンヘルス」の理念のもと、大きな責務を担っています。日本獣医師会では、人と動物が共生する社会の実現を目指し、「Thanks

Buddy宣言」を行いました。本会としても、動物との豊かな共生社会の構築を通じて、健やかさと豊かさを育む未来の実現を目指してまいります。

【青森県知事祝辞】



小谷副知事

来賓者を代表して、青森県知事の代理として小谷知也副知事から次のご祝辞をいただきました。

「日頃から獣医療の発展、家畜防疫、そして公衆衛生の向上に多大なるご尽力を

いただき、誠にありがとうございます。

今年4月には、3年ぶりとなる鳥インフルエンザが発生しましたが、無事に終息を迎えました。また、豚熱などの家畜伝染病防疫、ワクチン接種対応においても、ご協力をいただき感謝申し上げます。

現在、獣医師職員については、さらなる専門性の向上を目指し、北里大学と連携したスキルアップ研修に注力しています。

さて、10月に開催されます国民スポーツ大会においては、馬術競技の円滑な運営に向け、多大なるご協力をいただくこととなっております。大会を成功へと導くためには、引き続きお力添えを賜りますようお願い申し上げます。」

【北里大学獣医学部長祝辞】

北里大学獣医学部長の岡野昇三先生から次のご祝辞をいただきました。



岡野学部長

「日頃から公衆衛生、畜産業の振興、動物福祉の向上、家畜診療の現場で活躍されている皆様に敬意を表します。

当獣医学部は、創立60周年の節目を迎えることとなりました。これも、皆様のご理解の賜物であり、深く感謝申し上げます。

また、学生実習の際に受け入れにご協力頂いた皆様にはお礼申し上げます。現場での生きた学びは、何物にも代えがたい財産となっています。

さて、地域を牽引する産業動物や公務員獣医師の確保や育成、技術継承は、現在大きな課題となっており、今後とも、県と連携し対処していく所存です。

私たちは人、動物、そしてそれらを取り巻く環境の健全性を一つのものとして捉える「ワンヘルス」の理念を、より一層普及させていくこととしております。

【御来賓の紹介】

御来賓者6名のご紹介がありました。

青森県健康医療福祉部

部長代理 次長 三 村 光 司

青森県農林水産部部長

部長代理 次長 内 山 真 人

青森県健康医療福祉部

保健衛生課課長 代理

総括主幹 石 井 昌 史



小谷副知事をはじめ御来賓の方々

青森県農林水産部

畜産課課長

田 中 慎 一

(一社) 青森県畜産協会

会長 代理 専務理事 中 野 晋

青森県動物薬品器材協会会長

代理 高 橋 桂 祐

(小田島商事株式会社青森営業所長)

【出席会員数報告】

事務局から本日の出席者が報告され、「本定時総会は定款第18条第1項の規程による総会成立定数である会員総数の過半数に達しており、本定時総会は成立する」ことが告げられました。

会 員 数：384名 過 半 数：193名

本人出席： 70名 有効委任状：217名

計287名

【議長の選出及び議事録署名人の選任】



中島議長

恒例により小山田会長が仮議長となり、議長選出について諮ったところ「仮議長一任」との声があり、定款第16条の規定に基づき出席正会員の中から上十三支部の中島 聡

先生が指名されました。

次に中島議長は、議事録署名人に三八支部の漆山文也先生及び上十三支部の太田智恵子先生を、書記に事務局の伊東明子さんを指名しました。

【議案の審議】

中島議長により議事が進められ、議案は全て事務局長である盛田常務理事が説明しました。

第1号議案

令和7年度事業報告書及び計算書類等の承認について

説明がありました。次に、高村定男監事から監事を代表して監査報告がありました。

その後、議長が質疑・意見を諮ったところ、質問等はなく全員異議なく承認されました。

第2号議案

令和8年度の事業計画書及び収支予算書について、事務局から予算執行に関する方針が示されました。

これを受け議長は、質疑・意見等を諮ったところ、質問等はなく全員異議なく承認されました。

第3号議案

令和8年度会費の額及び徴収方法について説明がありました。これを受け議長は質疑意見等を諮りましたが、全員異議なく承認されました。

・青森県獣医師会費 5,000円

・日本獣医師会費（構成獣医師会割会費）
6,000円

・特別会費

狂犬病予防注射1頭当り 450円



盛田常務理事



第4号議案

名誉会員の推薦について、事務局から説明があり、議長は、質疑意見等を諮りましたが、異議なく承認されました。なお、推薦者は次の8名です。

青森支部	齋藤 俊逸 先生
	太田 耕治 先生
弘前支部	齋藤 健二 先生
	前田 良博 先生
三八支部	鈴木 顯義 先生
上十三支部	大浪 洋二 先生
	小山田 久 先生
	山崎 憲久 先生

第5号議案

理事1名の役員改選について、事務局から提案がありました。これを受け議長は、定款第18条第3項の規定に基づき賛否を諮ったところ、全員異議なく承認されました。

最後に議長から、承認された役員から就任承諾書が提出されている旨の説明があり、第78回定期総会は終了しました。

その後、直ちに第3回理事会が開催され、獣医師会の方針について話し合われました。

◎新理事について

上十三支部、中央家畜保健衛生所所長の児玉能法さんが承認され新理事となりました。

なお、任期は令和8年6月10日から令和9年6月の総会日までの1年間となります。



小谷副知事を囲んで（盛田常務理事、小谷副知事、小山田会長）

定時総会終了後の懇親会について

小山田会長による挨拶、そして妻神副会長による乾杯の発声をもって、懇親会が盛大に執り行われました。

会員の皆様が一堂に会するのは久しぶりの機会となり、限られた時間ではございましたが、美味しいお料理やお酒を囲みながら、和やかに歓談の花を咲かせておりました。

盛会のうちに時は進み、下北支部藤田毅彦先生の締めにより終了しました。



青森県における監視伝染病発生状況

青森県農林水産部畜産課

1 監視伝染病の発生状況

(単位：頭、羽)

区 分		年 次				
		令和 3	4	5	6	7
家畜伝染病 (法※第2条)	高病原性鳥インフルエンザ	10	12	2		
	ヨーネ病	9	10	4	5	7
	腐蛆病					
届出伝染病 (法※第4条)	牛ウイルス性下痢				2	
	牛伝染性リンパ腫 (BLV)	87	74	72	56	40
	サルモネラ症・牛	3	3	3	5	6
	破傷風・牛			3		1
	豚丹毒	8	8	27	22	10
	豚赤痢					2
	サルモネラ症・鶏	3				
	鶏伝染性気管支炎	4		18		3
	鶏伝染性喉頭気管炎			8		
	鶏痘	2				

※法：家畜伝染病予防法

○令和7年次監視伝染病の家畜保健衛生所別発生状況

(単位：頭、羽)

区 分		八 戸	中 央	つがる広域	む つ	小 計
ヨーネ病	新 規			1	1	2
	継 続		3	2		5
牛伝染性リンパ腫 (BLV)	と畜場	8	11			19
	農 場	6	12	2	1	21
サルモネラ症・牛	農 場		6			6
破傷風・牛	農 場		1			1
豚丹毒	と畜場		9	1		10
豚赤痢	農 場		2			2
鶏伝染性気管支炎	農 場	3				3

2 死亡牛の牛海綿状脳症 (BSE) 検査状況

(単位：頭)

区 分	年 度				青森県の状況
	令和 4	5	6	7	
青森県	242	256	0	0	○平成15年度、茨城県の発生に係る疑似患畜29頭を検査し陰性を確認 ○平成15年検査開始から18,106頭を検査。全て陰性 (家畜保健衛生所検査実施分)
全 国	21,002	17,879	3,400	1,416※1	

※1 令和7年度の全国検査頭数は、令和7年9月30日までの成績

※2 法改正により令和6年4月1日から検査対象を全月齢のBSE関連症状牛、特定症状牛に変更

青森県における食中毒発生状況

青森県健康医療福祉部保健衛生課

1 令和6年次発生状況

県保健所管轄分

発生日	発生場所	摂食者数	患者数	死亡数	原因食品	病因物質	原因施設
1. 20	十和田市	287	59	0	施設が提供した食事	ノロウイルス	飲食店
5. 14	東津軽郡	不明	1	0	フグ（種類不明）	動物性自然毒	家庭
9. 28	弘前市	26	4	0	施設が提供した食事	カンピロバクター	飲食店
11. 10	弘前市	7	3	0	施設が提供した食事	カンピロバクター	飲食店
11. 22	五所川原市	不明	2	0	施設が提供した食事	カンピロバクター	飲食店
計			69	0			

中核市発生分

病因物質	発生件数	患者数	中核市名
カンピロバクター	1	13	青森市
計	1	13	

2 令和7年次発生状況

県保健所管轄分

発生日	発生場所	摂食者数	患者数	死亡数	原因食品	病因物質	原因施設
1. 30	北津軽郡	10	6	0	提供された食事	ノロウイルス	不明
2. 16	弘前市	21	10	0	施設が提供した食事	ノロウイルス	飲食店
4. 14	上北郡	不明	55	0	施設が提供した食事	ウエルシュ菌	集団給食施設
10. 19	弘前市	1	1	0	フグ（種類不明）	動物性自然毒	家庭
計			72	0			

中核市発生分

病因物質	発生件数	患者数	中核市名
カンピロバクター	1	4	青森市
ノロウイルス	4	52	青森市、八戸市
計	5	56	

世界獣医師会大会開催報告

—— 31年ぶりの日本開催、天皇陛下のご臨席を仰いで ——

事務局

令和8年4月21日（火）、東京国際フォーラムにおいて、国内外から多くの関係者が集う中、「第41回世界獣医師会大会」の開会式が盛大に執り行われました。我が国での開催は実に31年ぶりとなり、世界の獣医師が一同に会して獣医療、公衆衛生、動物福祉の未来を議論する国際的な祭典が幕を開けました。

大会のメインテーマは「ワンヘルスで世界の獣医療が示す未来」です。人・動物・環境の健康が密接に関わり合っているという「ワンヘルス」の理念に基づき、新興感染症や薬剤耐性菌（AMR）といった地球規模の課題に対し、獣医師が果たすべき役割を再確認することが今大会の大きな目的です。

本式典には、天皇陛下のご臨席と関係閣僚が出席されることから、会場入口において手荷物検査や運転免許証などによる身分確認、ウォークスルー型金属探知機による身体検査が行われました。

天皇皇后両陛下のご臨席を仰ぎ、例年の年次大会とは一線を画す厳かな雰囲気の中、開会式が執り行われました。主催者である日本獣医師会の藏内会長からは、「開催国である日本からワンヘルス（One Health）の理念を世界へ発信していきたい」との力強い挨拶がありました。また、愛子内親王殿下も会場のお席に着座され、熱心に耳を傾けられました。

続いて世界獣医師会のJohn de Jong会長、日本学術会議の光石衛会長による挨拶に加え、鈴木隼人内閣府副大臣（小野田紀美内閣府特命担当大臣代理）、鈴木憲和農林水産大臣、小池百合子東京都知事より祝辞をいただきました。

式典の掉尾を飾ったのは、天皇陛下からのお言葉でした。陛下は、ご一家が3匹の保護犬や4匹の保護猫と生活を共にしてこられた歩みに触れ、動物たちがもたらす喜びや癒し、そして「一つ

つの命がかけがえのない存在である」ことを深く語られました。

また、日々動物の健康を守り、命を救うために尽力する獣医師の仕事に深い感銘を受けているとお言葉を賜りました。さらに、ワンヘルスの考え方を踏まえ、人獣共通感染症対策をはじめとする獣医師の役割はより一層大切になっている、との励ましのお言葉をいただきました。

陛下のお言葉は、日々それぞれの現場で困難な業務に携わる我々会員にとって、大きな誇りと勇気を与えるものでした。

この開会式は、参加した全ての会員にとって生涯忘れ得ぬ記憶として刻まれたことと思います。



第41回世界獣医師会大会会場
（東京国際フォーラム）

世界獣医師会大会 基調講演の概要 ～ One Healthアプローチによるパンデミック・インフルエンザの理解と対策～

事務局

世界獣医師会大会の開会式終了後、喜田宏先生による基調講演が行われました。

会場後方の中央席には、天皇皇后両陛下並びに愛子内親王殿下がご着席になり、本講演をご聴講賜りました。講演開始直前、会場側面の扉よりお三方がお姿を見せられると、ご臨席を予期していなかった会場に驚きが走り、すぐさま会場全体が温かい歓迎の拍手に包まれました。

喜田先生の基調講演の内容をまとめましたので、ご一読ください。

1 渡り鳥を媒介としたウイルスの地球規模の循環

鳥インフルエンザウイルス、特にH 5 N 1などの亜型は、突如として出現したものではない。これらは数十年前から自然界に存在しており、アヒル（カモ）をはじめとする渡り鳥の個体群の中で定着している。1957年のアジアインフルエンザや1968年の香港インフルエンザの起源を辿れば、これらもまた渡り鳥から分離されたウイルスに端を発している。

アラスカ、サハリン、モンゴル、そして日本といった地域は、渡り鳥の主要な飛行ルート（フライウェイ）上に位置しており、ウイルス伝播の重要な拠点となっている。夏季、北方の営巣地（アラスカやモンゴル北部の湖沼など）に集まる渡り鳥は、糞便を通じて高濃度のウイルスを水中に放出する。興味深いことに、これらのウイルスは自然宿主であるカモ類に対しては病気を引き起こさず、水という媒介物を通じて環境中に安定して維持されている。この「健康な鳥によるウイルスの運搬」こそが、ウイルスが数千キロに及ぶ長距離移動を可能にし、アジア諸国間、あるいは大陸間を跨いで広がる原動力となっている。

2 モンゴルでのサーベイランスとライブラリーの構築

2000年からモンゴルを最重要モニタリング地点とし、継続的な調査を行ってきた。その結果、モンゴルの渡り鳥からH 1 ～ H16、N 1 ～ N 9 ま

で全ての組み合わせを含む122種類以上、計1,600株を超える膨大なウイルスライブラリーを構築した。この多様性は、モンゴルが鳥インフルエンザウイルスの遺伝的交差点であることを示唆している。

しかし、毎年定点観測において、高病原性H 5 N 1 が野鳥から直接検出されることは稀である。これは、高病原性ウイルスが本来の自然界のサイクルの中にいるものではなく、家禽（ニワトリ等）の集団飼育環境下で強毒化したものが、何らかの形で野鳥に逆流入した「外来種」のような存在であることを裏付けている。この発見は、パンデミック対策における「監視」の重要性を改めて浮き彫りにしている。

3 現行ワクチンの構造的欠陥と「全粒子ワクチン」への転換

将来のパンデミック、現在進行中のH 5 N 1 の脅威に対するワクチン戦略に対しては、事態を危惧している。

現在主流となっている「スプリットワクチン」は、副作用を軽減するために不活化しウイルスの粒子を分解して、特定のタンパク質だけを取り出して作成したものである。しかし、この製法では免疫系への刺激が弱く、特にウイルスが変異した場合や、未知の亜型が出現した際に十分な防御効果を発揮できないことがマウスの実験などで明らかになっている。

これに対し、強く推奨するのが「不活化全粒子

ワクチン」である。これはウイルスの構造を丸ごと維持したまま感染力だけを奪ったもので、スプリットワクチンに比べて格段に高い免疫応答を引き出すことができる。

この全粒子ワクチンは、将来出現するかもしれない多様な変異株に対しても、より広範な交叉防御能力を持つことが期待されており、パンデミックを制御するための「真の武器」となり得るものと考えている。

4 制御に向けた政策的提言：監視・準備・対応

パンデミックの制御において、ワクチン接種はあくまで戦略のひとつであり万能薬ではない。

特にアジア諸国での安易な家禽へのワクチン接種は、感染しても症状が出ない「サイレント・スプレッド」を引き起こし、かえってウイルスの潜伏と拡散を招く危険性がある。

真のパンデミック対策とは、次のことを総括的に統合して実施することである。

①継続的なモニタリング

渡り鳥と環境水の調査を継続し、ウイルスの変異と移動をリアルタイムで把握すること。

②科学的準備

スプリットワクチンの限界を認め、政府や製薬会社が主導して、より効果の高い不活化全粒子ワクチンを開発して備蓄を急ぐこと。

③国際的な連携

モンゴル、ロシア、アメリカ、日本といった共同研究の枠組みを強化し、国境を越えた情報の共有を行うこと。

5 まとめ

自然界からウイルスを完全に排除することは不可能である。しかし、ウイルスの生態を正しく理解し、科学的根拠に基づいた準備を怠らなければ、人類はパンデミックの被害を最小限に抑えることができるはずである。

(基調講演は英語でのスピーチのため、日本語に翻訳し要約したものです。)

基 調 講 演

4月21日(火) 11:00～12:00



One Health アプローチによる パンデミック・インフルエンザの理解と対策

半世紀以上にわたるインフルエンザウイルスの生態研究から解明された出現機構に基づき、ワンヘルスのアプローチなど多角的な施策を通じて、将来のパンデミックに備えるための具体的な戦略を包括的に提示します。

喜田 宏

北海道大学ユニバーシティプロフェッサー／人獣共通感染症国際共同研究所 特別招聘教授 統括／ワクチン研究開発拠点 特任教授／WHO 人獣共通感染症対策研究協力センター長／獣医学博士 日本学士院会員 文化功労者

世界獣医師会大会リーフレットから転載

世界獣医師会大会を終えて

事務局

大会では、人と動物の健康、環境の健全性を総合的に守るワンヘルスの理念に基づく講演やセッションが行われました。また、「地球の健康を獣医療がどう守るか」という壮大な未来像を世界に提示して幕を閉じました。

今大会がもたらしたものは何だったのでしょうか。

1 開会式・基調講演への皇室のご臨席

天皇陛下から開会式でお言葉を賜り、その中で「ワンヘルス（One Health）」、獣医師の仕事の内容（小動物診療、家畜防疫、公衆衛生）に触れたことは、獣医師に対する国民への理解に繋がるのではないのでしょうか。

また、世界各国から集まった獣医師に対し、皇室が重んじてこられた「生命への慈しみ」や「科学への敬意」を直接伝えられたことは、日本への理解を深める外交の場となったと考えます。

さらに、皇室ご一家が、基調講演に耳を傾けられたことは、獣医療の現場で働く獣医師の矜持を高めることとなったと考えています。

2 世界獣医師会長への就任

日本獣医師会の藏内勇夫会長が世界獣医師会（WVA）の第29代会長に就任しました。このことは、日本の獣医療が質・量ともに世界トップクラスであることを証明しただけでなく、今後の世界の獣医療戦略において日本が主導権を握ることを意味しているのではないのでしょうか。

新会長は就任演説で、「獣医師は、動物だけでなく、環境と人間を含めたすべての生命の安全保障に責任を持つべきだ」と強調し、「ワンヘルス」の国際的な推進を強調しました。

3 動物福祉（アニマルウェルフェア）の再定義

シンポジウムでは、「動物がどう扱われるべきか」という動物福祉の議論も深まりました。

欧米で先行していたアニマルウェルフェアの概念に対し、アジアの文化や食料事情を考慮した「バランスの取れた福祉基準」の重要性が議論されました。

4 「東京宣言2026」

大会最終日に採択された「東京宣言2026」は、具体的な目標と行動計画が盛り込まれました。

序文では、パンデミックや薬剤耐性菌（AMR）、気候変動など、地球規模の危機が複雑に絡み合う現代において、獣医師の役割を拡張すべきだという強いメッセージが示されました。

また、

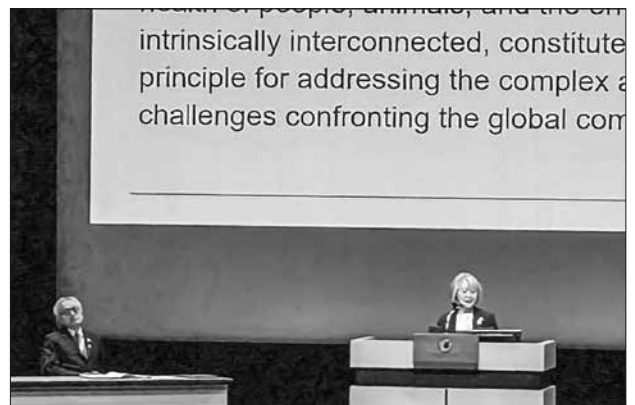
①人獣共通感染症の監視ネットワーク

野生動物と家畜の境界線で発生するウイルス変異を、リアルタイムで共有するシステムの構築。

②薬剤耐性（AMR）への介入

抗生物質が効かない細菌の脅威に対し、不必要な投薬削減のための国際基準の策定。

などが宣言にまとめられました。



東京宣言2026
藏内会長（左）と宣言をする栗本副会長（右）

日本獣医師会雑誌が電子ジャーナル化されます

事務局



日本獣医師会では、令和8年1月から日本獣医師会雑誌の電子ジャーナル化を開始しており、すでに電子ジャーナルが配信されている地方会があります。

しかし、青森県獣医師会では、配信のために必要な個人メールアドレスの収集に時間を要しており、本年1月からの電子化に対応していません。

そのため、令和9年1月から電子ジャーナル化を実施する予定です。

【今後の予定】

日本獣医師会雑誌は毎月発行されています。電子ジャーナル化が実施されると令和10年12月号（令和11年1月号（同封））までは、紙媒体と電子ジャーナルの両方が会員に提供される予定となっています。この間、紙媒体の配布を停止し電子ジャーナルのみとしたい会員は、支部獣医師会にご連絡ください。

令和11年2月号からは紙媒体は有料となり、原則、電子ジャーナルに移行します。現在の獣医師会雑誌の頒布価格は送料・消費税込みで1,100円ですが、有料化によりこの価格を上回るようになっていきます。なお、令和14年から紙媒体は廃止されます。

【電子ジャーナル化に備えて】

電子ジャーナル化されますが、受信拒否や迷惑メールに振り分けられないように注意が必要です。

「信頼できる送信者の登録」として、journal.sys@nichiju.or.jpを追加ください。

なお、このアドレスは配信専用となりますので、当該メールアドレスに返信されても回答等は

できません。

今後の予定

年月	雑誌 (紙媒体)	電子 ジャーナル	備考
令和8年 12月	○	×	
令和9年 1月	○	○	雑誌の停止は 可能です
令和10年 12月	○	○	
令和11年 1月	△	○	希望者有料
令和14年 1月 以降	廃止	↓	電子ジャーナル 完全移行

△ 希望者のみ（獣医師会雑誌有料後の価格は未定です。）



【閲覧方法】

毎月15日前後に電子メールで会員に発行のお知らせが届きます。メールに記載された閲覧URLをクリックするとログイン画面に移行します。

IDとパスワードを入力するとビューア画面で雑誌を閲覧できます。なお、IDと初期パスワードは次のルールで初期設定されています。

ID: 獣医師免許登録番号 + 誕生月（2桁） + 誕生日（2桁）
初期パスワード: 000（3桁） + 獣医師免許登録番号

ビューア画面では過去2年分のバックナンバーの閲覧が可能で、2年以上前のものを含む過去のバックナンバーについては、日本獣医師会のホームページから確認できます。

(<https://jvma-vet.jp/mag/backnumber.html>)

【トラブル】

(1) 電子ジャーナルを受信できない

受信できない場合は、①迷惑メールに振り分けられている ②メールアドレスが間違っていることなどが考えられます。

①については、先にお知らせしましたが、「信頼できる送信者の登録」を行ってください。このような対応をしても配信されない場合は、支部獣医師会にお尋ねください。

(2) 電子ジャーナルを閲覧できない

送信メールのURLを受信しているが、IDと初期パスワードを入力しても閲覧できない場合は、支部獣医師会にご相談ください。

【電子ジャーナルの操作方法】

電子ジャーナルは直感的に使用できる使いやすい仕様となっておりますが、操作方法が不明な場合は、株式会社加藤文明社サポートデスク (jvma-support@bunmeisha.co.jp) にお問い合わせください。

【メールアドレスの管理】

取得したメールアドレスは、本会と公益社団法人日本獣医師会と共有させていただきます。また、本会及び本会支部と会員の皆様との連絡を取る際にも使用いたします。

本会では、メールアドレスを含む個人情報を正確かつ最新の状態に保つよう努めています。また、情報漏えいを防止するため、適切な管理体制と安全対策を講じております。メールアドレスを変更した際には、支部獣医師会にご連絡をお願いします。

電子化に関するQ&A

Q 1 電子化による利点はなんですか。

A 1 ①情報の即時性、閲覧の利便性が大幅に向上されます。

いつでも、どこでも閲覧できます。

②公開論文がDOI^{*}を付与されたオープンアクセス論文となり書庫など保管管理場所に依存しなくても良く、検索や機関リポジトリへの掲載がしやすくなります。そのため、簡単に論文を探すことができます。

③バックナンバーを物理的に保管する必要がなくなり、小スペース化が図られます。

④日本獣医師会の印刷経費節減が見込まれます。

⑤発送費や発送に係る事務手続の負担が軽減されます。

※DOI : (Digital Object Identifier) : 電子論文の識別が可能となる仕組みで、URLが変わっても検索が可能となる。

Q 2 紙面構成は変わるのですか。

A 2 当面は現在の紙面構成をそのまま維持します。電子ビューア画面においても、目次構成や紙面の見た目は現状のままです。今後、購読者の要望等により紙面構成を変更することもあります。

Q 3 毎月の配信方法はどうなるのですか。

A 3 紙媒体を冊子で発行している発送元が登録されたアドレスに電子ビューアへのアドレス（URL）を送信します。URLを選択しクリックするとログイン画面に移行します。ID、パスワードを入力し閲覧してください。

Q 4 電子ジャーナルにはどのような機能がありますか。

- A 4 ①目次をクリックするとそのページに移動し、1ページごとに確認できます。紙面を拡大することもできます。
- ②紙面にテキスト付の付箋をつけることができます。付箋に文字を書くことも可能です。また、様々な色のペンにより誌面に書き込むことや消しゴムで消すことができます。
- ③ジャーナル内をキーワードで検索することができます。（PCのみ）
- ④全ページの印刷のほか、指定された範囲の印刷も可能です。

Q 5 夫婦、兄弟、親子で同じメールアドレスを登録しました。閲覧はどうすれば良いのでしょうか。

A 5 登録したメールアドレスに閲覧のためのアドレス（URL）が送信されます。

ログイン画面に移行後、個人毎に割り振られたIDとパスワードを入力してください。

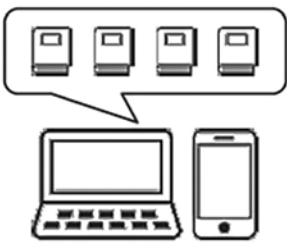
個人毎にビューア画面を確認することとなります。

パソコン、携帯電話、タブレットに同じアドレスを登録している場合、それぞれのデバイスでアクセスすることができます。

Q 6 協賛広告は今後もあるのか。

A 6 当面は、誌面構成は変わらないことから現在の広告体系を維持する予定となっています。

いつでも、どこでも読める



パソコンやタブレット、スマートフォンで簡単に閲覧できます。専用アプリは不要です。

紙のように読みやすい



自分の見やすい大きさに、紙面を拡大縮小ができます。実際の誌面と同じ見方で、ページをめくる感覚で読めます。

読みたいところをすぐに探せる



キーワード検索機能で、目的のページや内容にすぐアクセスできます。
※PC版のみ

青森県獣医師会報発行回数の変更とホームページについてのお知らせ

事務局
会報部会

会報No206号（2026年7月号）を、お手元にお届けします。

あれ？ いつもは4月1日に発行されているはずだけれども、今回はずいぶんと遅れて発行されたんだな・・・と思っている方も中にはおられるのではないのでしょうか。

【経緯】

青森県獣医師会報は、1967年6月の創刊以来、半世紀以上にわたって会員の皆さまへさまざまな情報をお届けしてきました。創刊当初は5～7か月おきの不定期発行という、今思えばかなり自由なスタイルでした。第28号からは年4回の定期発行となり、長い間、会員同士をつなぐ大切な媒体として親しまれてきたと考えています。

しかし、会報の主な財源である狂犬病予防注射事業の実施頭数は、人口減少と高齢化の影響により年々減少し続けています。さらに、景気の影響で広告掲載に協力している業者も減り、広告収入も減少しています。これに加え、紙媒体の印刷費や発送費は年々上昇し、会報を作成するための経費負担が以前よりも重くなっていました。

【検討】

実は、No.195号（2023年7月号）の編集会議から会報の経費削減に係る意見が事務局からあり検討してきました。参考として東北各県及び仙台市獣医師会の会報発行状況についてまとめたものを表に示します。

青森県獣医師会報については、各獣医師会と比較すると発行回数が年4回と多く、年間ページ数も180ページとかなりの量となっています。

経済状況と他県の内容を踏まえ、会報部会では今後の発行について慎重に検討を重ねてきました。その結果、会報の発行を「年4回（4月、7月、11月、1月）から年2回（7月、1月）」に変更することとし令和7年12月12日に開催された令和7年度第5回理事会において承認されました。

発行回数が減ることは心苦しい部分もありますが、その分、紙面の内容をより濃く、より丁寧にお届けできるように記事の内容をこれまで以上に充実させる予定です。また、現場で活躍する会員の皆様の声を積極的に取り上げ、地域の話題や取り組みを深掘りした紙面づくりを強化していきたいと考えています。

【紙面】

今後の紙面づくりのため、会報部会では次のような内容について話し合われています。

表 東北各県・仙台市獣医師会会報誌発行状況

獣医師会名	青森県	秋田県	岩手県	山形県	福島県	宮城県	仙台市
年発行回数	4回	2回	2回	2回	3回	2回	1回
発行月	1, 4, 7, 11月	2, 9月	4, 10月	1, 7月	1, 6, 10月	1, 7月	2月
発行ページ数	各50ページ前後	各60ページ	60、30ページ	50, 40ページ	各30ページ	60, 30ページ	20ページ
年間ページ数	180ページ	120ページ	90ページ	90ページ	90ページ	90ページ	20ページ
その他	臨床ノートはカラー		一部(総説)はカラー				オールカラーコート紙使用

①紙面構成

獣医師会会員の年齢構成も多様であり、会報を読みやすく、より魅力的なものにするためには、フォントの大きさ、行数、列数を考え、表紙目次も1段組とするなど改良を加える。

②必要な記事の検討

本会運営の根本である総会や事務局の活動内容、学術的に参考となる発表、年初の挨拶、伝達事項、会員の情報などは掲載する。

③ホームページの利用

研修会の開催、伝達すべき会議の内容、法律等の変更、様式の変更は重要な内容だが、獣医師会のホームページから情報の取得が可能であり、即時性があることからこれを利用する。

④企画の見直し

他の獣医師会では、次回の投稿者を指名するリレー投稿や干支会員への投稿依頼、公務員以外の新入会会員紹介、職場拝見といった面白い企画などがあり、今後、検討する必要がある。

⑤会員の声

会員の声が集まることで、会報は、身近な存在になるのではないかな。そのため、日頃の活動の様子、地域での取り組み、ちょっとした話題や気づきなどを積極的に収集する、又は投稿を呼びかける。

⑥著作権の配慮

写真や図など著作権の問題もあり、掲載する記事に関しては、これに対する善後策も考え対応する必要がある。

これらのことを踏まえ、より良い紙面づくりを検討することとしています。

【今後の方針】

青森県獣医師会報につきましては、このたび年2回の発行へと変更されます。

今後は、検討された内容をより充実させて、会員にとって役立つ、読み応えのある会報に育てていければと考えています。



目次を1段組み

(イメージ)



【ホームページの充実】

会報の発行回数が少なくなる分、皆さまに必要な情報をこれまで以上にタイムリーにお届けできるよう、本会ホームページの内容をさらに充実させます。

ホームページの「お知らせ」では、講習会・研修会の開催案内、伝染病の発生状況、県職員等の募集情報、そして県獣医師会から会員の皆さまへお伝えしたい各種連絡事項を掲載しています。表題が分かるようになっていきますので、題名をクリックしてご覧ください。日々の業務に関わる情報がまとまっていますので、ぜひこまめにチェック

してください。

「会員専用ページ」では、獣医師法や獣医療関係の法改正情報、会員の皆様だけに向けた大切なお知らせなど、より専門的で内部向けの情報を掲載しています。閲覧にはユーザー名とパスワードが必要となりますので、もしお忘れの場合は支部獣医師会までお気軽にお問い合わせください。

さらに今回、新たに「会員の最新情報」というページを設けました。クリックすると、現在の会員数、新規入会者、退会者、ご逝去などの情報がリアルタイムで把握できます。青森県獣医師会の会員の状況を知るうえで役立つ内容ですので、こちらもぜひご覧ください。



また、当会ホームページでは、会員の小動物病院を紹介するページも運営しています。現在、青森支部10施設、弘前支部10施設、三八支部17施設、西北支部3施設、上十三支部12施設及び下北支部4施設の合計56施設の動物病院を掲載中です。

地域の利用者に安心して会員の動物病院を紹介できるよう今後とも努めてまいりますので、サイトの内容について、ご要望がありましたらお気軽にお知らせください。なお、動物病院の情報について掲載をご希望の会員は、青森県獣医師会までご連絡ください。

ホームページの内容は、会員の皆さまにとって組織の現状を把握し、活動への理解を深めるための大切な情報源と考えています。

本会では、透明性を大切にしながら、必要な情報を迅速かつ正確にお届けできるよう、継続的に更新作業を行っていますので、定期的にご覧いただき、会の動きを知る一助としてお役立てください。



令和7年度青森県家畜保健衛生業績発表会が開催されました

事務局

令和8年2月6日（金）、県内に4か所ある家畜保健衛生所の業績発表会が「青森県と学校法人北里研究所との人材育成に関する協定（R5.5.29）」により北里大学獣医学部で開催されました。

発表会は家畜保健衛生所の日常業務に関連した事業、調査、研究等の業績について発表を行い、家畜衛生事業の改善向上に資するとともに、北海道・東北ブロック家畜保健衛生業績発表会の発表者を選出することを目的として毎年開催されています。

家畜保健衛生所の運営及び家畜保健衛生の企画推進に関する業務（1部）の発表と家畜保健衛生所及び病性鑑定施設における家畜の保健衛生に関する試験、調査研究（2部）からの発表があります。

今回は、各部門5演題の発表があり、畜産研究所から1演題の参考発表がありました。

審査の結果、1部から浜田 繭央さん、武井 裕佳さん、2部から木村 威凱さんの発表がブロック発表会に選出されました。なお、11演題の発表抄録を掲載しますので、業務の参考としてください。



左から浜田さん、武井さん、木村さん

○ 令和7年度青森県家畜保健衛生業績発表会発表演題一覧

No	部 門	演 題 名	所 属	発表者
1	1 部	豚熱陽性イノシシが確認された地域における防疫体制強化	八戸	赤坂 滯紋
2	1 部	肉用鶏農場における亜塩素酸添加消石灰の活用へ向けた取組	八戸	今井 良
③	1 部	養鶏場におけるリモート通信活用に向けた取組	中央	浜田 繭央
④	1 部	HPAI発生時における化製処理を想定した防疫計画の作成	中央	武井 裕佳
5	1 部	獣医師の幅広い活動分野を伝える取組 ～獣医師ってどんな仕事？～	つがる広域	相馬 亜耶
6	2 部	<i>Salmonella</i> Dublinによる牛サルモネラ症の発生事例と分離株の性状	中央	新倉 勇貴
7	2 部	EBL生前診断における血液検査成績の一考察	中央	真鍋 安博
8	2 部	8か月齢の黒毛和種でみられた牛伝染性リンパ腫を疑う症例	むつ	富山美奈子
⑨	2 部	伝染性ファブリキウス囊病ウイルス検査法の検討	中央	木村 威凱
10	2 部	めん羊に見られた鼻腔内の角化重層扁平上皮様の増殖を伴う腺癌	中央	阿部 和馬
11	参考	SNPデータを用いた青森県繁殖雌牛の系統分類の検証	畜産研究所	佐藤 萌子

注 ○印は北海道・東北ブロック家畜保健衛生業績発表会選出演題

第1部

1 豚熱陽性イノシシが確認された地域における防疫体制強化

三八農林水産事務所八戸家畜保健衛生所

○赤坂 滯紋、方波見将人

三八地域は2県に接し養豚が盛んであり豚熱発生の損失は計り知れない。令和6年5月に県境を接する隣県H町の飼養豚で本病発生、8月に当地域で本県初の陽性イノシシが確認され本病発生リスクが著増。全農場立入検査により、さらに具体的な防疫計画を再整備。9月には飼養管理者等を対象とした研修会開催。本病発生防止のための飼養衛生管理基準の再徹底と防疫対策の理解醸成。免疫付与状況確認検査は令和5年度まで家畜伝染病予防事業枠内で実施、令和6年度以降は肥育農場を含む全戸に拡大。エライザ検査で抗体陽性率8割を下回る農場は全て中和試験を実施。付与が確認されなかった農場は指導後、追加検査を実施し監視強化。野生イノシシ対策では、猟友会との捕獲個体の検体受渡、死亡個体の現地採材や死体処分の方法について市町村毎に調整し、当所での交差汚染防止を考慮した検査体制を整備。対応マニュアルや報告様式の作成、防疫マップシステムを活用した野生イノシシ検査成績の管理・共有。経口ワクチン散布においては散布区域の段階的拡大に伴い猟友会会員対象の散布に係る研修会開催。材料採取では資材提供によりサーベイランスを後押。令和7年度には疑い事例が2例発生するも豚熱否定。農場の早期通報により円滑な初動対応、飼養管理者の防疫意識向上が図られた。引き続き豚熱に加えアフリカ豚熱等の特定家畜伝染病の発生に備え、構築した体制を維持・強化していく所存。

2 肉用鶏農場における亜塩素酸添加消石灰の活用へ向けた取組

三八農林水産事務所八戸家畜保健衛生所

○今井 良、藤掛 斉

HPAIの侵入防止には定期的な消毒が重要なことから養鶏場の多くで待受け消毒として消石灰を散布。消石灰の散布が困難な管内肉用鶏農場から亜塩素酸添加消石灰（添加消石灰）について問合せがあったことから検証を開始。消毒効果の確認、散布後の経時的変化の確認、コストパフォーマンスについて検証。消毒効果の確認では農場にて添加消石灰を散布しウイルス及び細菌に対し消毒効果を評価。散布時、散布後2、4、6、8週の計5回採材し、50%培養細胞感染価試験及び生菌数測定試験を実施したところ、約4週間の効果を維持。散布後の経時的変化の確認では家保敷地内に消毒薬を散布し状況を確認。車両の往来や消毒作業で菲薄化が大きく進行し、散布は4週間隔が最適。コストパフォーマンスの検証では肉用鶏の飼養期間1サイクル中で、消石灰使用の場合と比較すると添加消石灰では散布時間は93%減少。添加消石灰は効果の持続性が高く、散布後に地面へ定着化することで、1回の散布で4週間の消毒効果が維持。飛散量の軽減により従業員の健康被害が減少、加えて住宅地にある畜産施設では特に有効であり、費用は同等であるが作業が効率化。添加消石灰の使用はHPAI対策に有用と判断。家保と農場が密接に情報共有して検証に取り組むことで課題が解決されるとともに、連携がさらに強化。今後は降雪等の影響を調査し、情報提供することで適切な消毒を指導し、HPAIの侵入防止対策強化に寄与する所存。

3 養鶏場におけるリモート通信活用に向けた取組

上北農林水産事務所中央家畜保健衛生所

○浜田 繭央、佐藤 美侑

県では業務の多様化や職員の負担増加から効率的な衛生管理指導体制を構築するため、リモート通信（リモート）の活用を推進。また、特定家畜伝染病防疫指針の改正によりリモートによる周辺農場の臨床検査が追加。当管内の養鶏場の多くは遠方の2地域に密集。緊急時には迅速な状況確認と対応、情報共有が課題。このため、養鶏場でのリモートの活用を検討。まず、リモートの利便性や効率性の理解のため、全農場を対象とした研修会を対面開催。リモートで可能な対応を説明し、機材の操作方法を習得するために実際の操作を体験。参加者からはリモート会議アプリよりもLINEが使いやすいとの意見。研修会後にはLINEを活用した農場の消石灰散布、死亡鶏の状況、地震被害等の状況確認に活用。ビデオ通話で意思疎通も可能であることから実用性を実感。加えて、大臣指定地域の農場、市町村と家保との定例的なリモート会議を開催することで、リモート普及及び関係機関との連携強化も図られた。一方、農場対象のリモート研修会では、対面と比較して意思疎通や内容の理解が困難等の意見。また鶏舎の構造により電波状況が異なることも確認。状況に応じた使い分けが必要。取組後は、リモート指導への理解が増し、活用を考える農場が増加（64%）。今後は、農場の電波状況等に応じたりモート対応マニュアルの整備やLINE等を活用した情報共有の試行を重ね、指導の効率化及び衛生管理体制の強化を目指す所存。

4 HPAI発生時における化製処理を想定した防疫計画の作成

上北農林水産事務所中央家畜保健衛生所

○武井 裕佳、角田 公子

当所では、令和5年度から埋却に代わる汚染物品の処理として化製処理を協議。処理施設の運用マニュアルを作成・共有し、有事の際の活用を検討してきた。しかし、昨シーズンの全国の発生事例を受け、防疫指針に殺処分時の飛散防止対策及び大臣指定地域に関する事項が新たに追加。当該指定地域には化製処理を計画する企業系農場16戸が集中。このため農場及び化製処理場（工場）の飛散防止対策に重点を置き再検討。防疫作業時の周辺農場への飛散防止のため、工場への搬入方法を密閉車両からフレコンバッグ（FB）に変更。このことによりFBからの死鳥取出方法や死体投入時の飛散防止対策が課題として浮上。死鳥を用いた検証の結果、羽毛等の飛散とFB内袋の落下・混入を認めたため、FB梱包方法等を検討し、模擬鶏を用いて検証。また、作業時に動員者の混乱を避けるためFB梱包方法についてパンフレットを作成。工場には投入口周辺に囲いを設置するなど飛散防止と従業員の安全を確保。これらの検討内容を運用マニュアルに反映。また、生成物、飼料及び敷料の処理に焼却等の複数の処理方法を組合せた計画を作成し、企業と共有。農場、工場、会社との複数回の協議、検証を重ね、発生時の処理方針、処理施設の運用マニュアル等を加味した防疫計画が完成。今後は、企業と密に情報共有し規模や施設等の変化に応じて修正を加えることで精度の向上を目指すとともに、他農場の防疫計画にも応用させる所存。

5 獣医師の幅広い活動分野を伝える取組 ～獣医師ってどんな仕事？～

西北農林水産事務所つがる広域家畜保健衛生所

○相馬 亜耶、加藤 由貴

本県の産業動物診療獣医師及び農林水産分野の公務員獣医師（以下、産業動物獣医師）の減少は顕著で、平成26年度と比較し令和6年度は31名減少。当所では、産業動物獣医師確保のため、従来から高校生を対象に出前講座を実施。しかし、獣医師志望者がいない高校からの出前講座辞退が頻発。そこで、高校進学前に獣医師の幅広い活動分野を伝え、獣医師を目指す高校生を増やすことが重要と考え、令和3年度から中学校にも出前講座の周知を管内全域で開始。その結果、平成30年度は2校だった実績が、令和5年度は7校177名に増加。また、令和6年度は管轄区域の変更で5市町村が増えたことから、実績は8校337名となった。さらに令和7年度は畜産技術職員も講師を担当し、自身の仕事内容についても説明。また、対面だけでなくオンラインを活用。獣医師の職域は広く、「人の役に立つ仕事」であることを周知し、具体的にイメージできるよう動画を用い、注射器等の実物に触れたり、ループで寒天培地に検体を塗る細菌検査の模擬体験をする等、受講者に合わせた内容を提供。受講者からは獣医師の幅広い活動分野がわかった（57.5%）、検査や器具に興味を持った（45.3%）との感想。さらに、2名が以前に出前講座を受けたと記述。今後は限られた人員で対応するよう効率化を図りながら、受講者の興味をより引き出せるような出前講座を目指す所存。

第2部

6 *Salmonella* Dublinによる牛サルモネラ症の発生事例と分離株の性状

上北農林水産事務所中央家畜保健衛生所

○新倉 勇貴、高橋 玲

令和7年8月、肉用牛農場で発熱、水様性の血便等で子牛の死亡が続発（事例①）。解剖の結果、未治療個体の複数臓器から*Salmonella* Dublin（以下SD）を分離。過去の事例から、増菌にはハーナテトラチオン酸塩培地（HTT）、ラパポート培地を併用したが糞便から菌分離できず。同年11月の乳用牛農場で、複数の子牛が呼吸器症状と下痢を呈し、立入りまでに3頭が死亡（事例②）。他県の事例からHTTに加えテトラチオネート培地（TT）も併用した結果、同居子牛検査ではHTTで1／9頭、TTで4／9頭からSDを分離、うち1頭は血液からも分離。既報で、SDの選択増菌培地含有色素に対する耐性の減弱化が報告されていることから、性状を比較するため、事例①②の6株を含むSD16株（平成株9、令和株7）及び*Salmonella* Typhimurium（ST）8株（平成株5、令和株3）について、ブリリアントグリーン（BG）とマラカイトグリーン（MG）に対する最小発育阻止濃度（MIC）を寒天平板希釈法により測定。併せてSDの薬剤感受性試験、プラスミドプロファイル（PP）も実施。MGに対するMICはSTが256 $\mu\text{g}/\text{ml}$ 、SDが0.5～2 $\mu\text{g}/\text{ml}$ と差を認め、BGに対するMICはSD平成株が0.5～2 $\mu\text{g}/\text{ml}$ 、令和株が0.25～0.5 $\mu\text{g}/\text{ml}$ とやや感受性。薬剤感受性はSD令和株で第3世代セフェム系薬剤に耐性化、PPでは令和株で共通の泳動像を確認。今回、令和株の色素感受性化や薬剤耐性を確認し、平成株とは遺伝的に異なるSDの流行が示唆。

7 EBL生前診断における血液検査成績の一考察

上北農林水産事務所中央家畜保健衛生所

○真鍋 安博、佐怒賀香澄

当所における牛伝染性リンパ腫（EBL）の疑いに対する生前診断のための血液検査依頼は、年々、増加傾向。稟告で一般症状の悪化がみられるものの血液検査で明確な結果が得られない場合が多い。今回、EBLの生前診断の精度向上を目的とし、既報で有用とされるLDH分画を行い、解析。対象をR 7年4月から11月とし、その血液検査結果の傾向を解析。20～208か月齢の肉用牛39頭のうち、一般症状の悪化や体表リンパ節の腫脹、起立困難、下痢等を認めたのは38頭、BLV感染牛のリンパ球数増加の指標であるJBの鍵陽性で異型リンパ球（Ly）5%以上のものが25頭、Ly数10,000個/ μ l以上で異型Ly増のものは11頭。血液生化学検査ではヒト白血病や腫瘍性疾患で上昇するAST、LDH、LDH分画、LDH/ASTについて確認。AST、LDHの上昇はそれぞれ13、19頭、LDH/ASTが20以上となったのは7頭、LDH分画（LDH 2、3、2+3）上昇はそれぞれ22、18、20頭。また、これらの牛の転帰は23頭が検査から1か月以内に死亡を確認。既報では、Ly、異型Ly、LDH総活性、LDH 2+3活性値と分画和、一般症状及び腫瘍の有無が発症牛検出効果が高いとされており、同様の傾向を得られた。課題は、稟告に際しての聞き取り内容、保存による失活を考慮した検査体制、その他の腫瘍性疾患や炎症性疾患との判別。今後も転帰を含めデータを積み上げていく所存。

8 8か月齢の黒毛和種でみられた牛伝染性リンパ腫を疑う症例

下北農林水産事務所むつ家畜保健衛生所

○富山美奈子、菅原 健

牛伝染性リンパ腫（EBL）は牛伝染性リンパ腫ウイルス（BLV）感染によるB細胞性リンパ腫で、好発年齢は4～8歳。発症牛は令和7年2月出生、同年10月に体表リンパ節腫脹のため検査。経過観察後、同月末再検査し11月鑑定殺。発症牛の血液、臓器・リンパ節等、同居牛血液を用い、血液一般検査、血液生化学検査、病理組織学的検査およびウイルス学的検査実施。発症牛のリンパ球数・異型リンパ球・LDHは観察期間中に顕著に上昇。剖検では複数のリンパ節腫大、臓器の腫大・白色病変等を確認。病理組織学的検査では臓器やリンパ節等で中～大型リンパ球浸潤・有糸分裂像が多発し、免疫染色を実施した臓器等でリンパ球がCD20陽性、一部臓器のリンパ球がCD 3陽性。ウイルス学的検査ではBLV抗体検査陽性、遺伝子検査では発症牛の血液・臓器等のプロウイルス量（PVL）は高値。伝播防止対策のため実施した同居牛検査ではBLV抗体陽性かつPVL検出限界以下またはPVLによる伝播リスクが低い牛や抗体陰性かつ中等度リスクの牛を確認。母牛はBLV抗体陽性・遺伝子陰性、妊娠期間中の令和6年12月に抗体陽転を確認。本症例は若齢牛だが、臨床所見、ウイルス学的検査、病理組織学的検査成績等からBLV感染によるEBLを疑う。母牛の推定感染時期、農場内感染状況から垂直感染・水平感染ともに考えられた。農場でPVL伝播リスクをもとに同居牛の再配置を指導。抗体検査とPVL測定併用が有効。

9 伝染性ファブリキウス嚢病ウイルス検査法の検討

上北農林水産事務所中央家畜保健衛生所

○木村 威凱、林 敏展

49,000羽を飼養するブロイラー農場で14日齢の鶏で発育不良を呈する個体が増加。剖検で筋胃の出血、びらんを認めた個体から伝染性ファブリキウス嚢病ウイルス（IBDV）が分離されたため農場ワクチン株との識別を実施。IBDVの遺伝子型識別には制限酵素断片長多型（RFLP）法が用いられているが、本法の報告から約30年が経過し、市販されているワクチン株のRFLP法による識別の有用性は不明。そこで市販のIBDV単味生ワクチン12種類及び今回検出されたIBDV（青森2025株）についてRFLP法の切断パターンを解析し、同領域の塩基配列及び分子系統樹解析による遺伝子型別と比較。既報では全ワクチン株の切断パターンが異なっていたが、12種類中4種類が同一の切断パターンで塩基配列は完全に一致。別の2種類のワクチン株も同一の切断パターンを示していたが、塩基配列は438塩基中2塩基の違いを確認。他6種類のワクチン株の切断パターンはいずれも異なっていた。青森2025株は全てのワクチン株と異なる切断パターンを示し、分子系統樹解析から中国野外株に近縁なIBDV抗原変異型（vIBDV）に識別。以上から、既存のRFLP法は現在においてもスクリーニングに有用だが、切断パターンの重複が認められたため正確な識別は困難。今後は目的に応じてRFLP法と分子系統樹解析の併用による識別を推奨。

10 めん羊に見られた鼻腔内の角化重層扁平上皮様の増殖を伴う腺癌

上北農林水産事務所中央家畜保健衛生所

○阿部 和馬、木村 威凱

家畜の鼻腔内腫瘍は悪性のものが多く発生例が少ない。今回、令和7年8月に死亡しためん羊で鼻腔内腫瘍症例に遭遇。症例は、18か月齢、雌、サフォーク種で、同年1月から鼻汁、膿汁の漏出を確認。剖検では、左側鼻腔内15cm×8cm大の腫瘍、鼻中隔の変形、気管内に泡沫状分泌物を確認。他に所見認めず。腫瘍は肉眼的にゼラチン状の領域を伴う。病理組織学的検査では、腫瘍の実質に類円形核を有する立方状又は円柱状の腫瘍細胞が単層の管状及び腺房状に増殖し、PAS陽性顆粒を含有、少数の有糸分裂像及び壊死を確認。また、類円形又は楕円形核を有する扁平又は円柱状の腫瘍細胞の重層の管状及び胞巣状の増殖も確認し、中には角化を示す扁平上皮細胞の乳頭状及び胞巣状増殖、癌真珠及び細胞間橋の形成、有糸分裂像及び壊死も確認。ゼラチン状の領域では、疎な結合組織が配列、間隙に硝子様物貯留、島状に類円形核を有する立方状細胞が腫瘍性に増殖し、単層の管状構造形成。抗サイトケラチン抗体による免疫染色では立方状、円柱状及び扁平上皮細胞で陽性。めん羊の鼻腔内腫瘍はEnzootic nasal tumor virus（ENTV）による腺癌が既知。組織切片からはENTV遺伝子非検出でウイルスの関与は特定できなかったが、ENTVによる鼻腔内腺癌で報告のない角化扁平上皮の増殖巣を伴った腺癌の稀な症例であり、今後、原因究明のためのより詳細な検索に努めたい。

11 SNPデータを用いた青森県繁殖雌牛の系統分類の検証

(地独) 青森県産業技術センター畜産研究所和牛改良技術部

○佐藤 萌子、鎌田 丈弘

黒毛和種では、全国的に産肉能力が優れた一部種雄牛の利用が進み、遺伝的多様性の減少が課題である。遺伝的多様性の維持には、県内各地域で保留されてきた雌系統の活用が有効であると考えられる。各地域の系統が有している遺伝的特徴を推定するためには、ゲノム情報の活用が有効であるが、県内各地域の雌牛の遺伝的特徴については、これまで明らかにされていない。そこで、SNPデータを用いた県内繁殖雌牛の系統分類について検証。2013年から2024年までと畜の雌肥育牛889頭、県種雄牛96頭、および県内繁殖雌牛136頭のDNAを抽出し、SNPタイピングを行った。SNPデータは、インピュテーションにより、34,481個のSNPデータに補完し、主成分分析を行った。繁殖雌牛は4つの地域（三戸地方、上北地方、下北地方、津軽地方）および畜産研究所に区分し、主成分分析の結果を検討。第1主成分および第2主成分から散布図を作成。三角形にプロットされ、血統情報に基づく糸桜系、兵庫系、および気高系に分類される県種雄牛が、それぞれ異なる三頂点に分布する傾向。三戸地方の繁殖雌牛は、気高系の座標領域に分布する傾向。畜産研究所の繁殖雌牛は、兵庫系・気高系・糸桜系いずれの座標領域にも分布し、系統的に多様な背景を有する傾向。県内の黒毛和種繁殖雌牛集団には地域による遺伝的特徴が存在し、SNPデータに基づく主成分分析が系統的な特徴を把握するうえで有効であることが示唆。



家畜保健衛生業績発表会（発表の様子）

「イカ水槽」「クラゲフォトスポット水槽」新設

青森県営浅虫水族館 三 浦 弘 毅

当館に、新しい水槽が二つ誕生しました。きっかけは、「浅虫水族館の賑わいのために役立ててほしい」という温かな寄付です。その想いを受け取り、私たちは「イカ水槽」と「クラゲフォトスポット水槽」という、まったく異なる魅力をもつ水槽をつくりました。

まず一つ目の水槽は「イカ水槽」です。みなさんは青森県の水産物と聞いて、何を思い浮かべるでしょうか。近年は水揚げ量が減少しているものの、かつて全国2位を誇ったスルメイカを思い出す方も多いのではないのでしょうか。スルメイカはツツイカ目に属し、ヤリイカやアオリイカも同じ仲間です。しかし、このツツイカ目は飼育が難しいことで知られており、通年展示している施設は決して多くありません。寿命が約1年と短いこと、共食いをしてしまうこと、そして搬入時に体表へついたわずかな傷が致命傷になること。そのどれもが、飼育が難しいと言われる要因です。

だからこそ、私たちはこの生き物を展示したいと思いました。イカは半透明の体を持ち、周囲の状況や刺激に応じて、まるで呼吸をするかのように体色を変化させます。その繊細でダイナミックな変化は、見ていて飽きることがありません。そこでこの水槽では照明にもこだわり、その美しい体色をじっくり観察できる水槽を目指しました。執筆している5月現在はアオリイカを展示していますが、季節とともに、夏はスルメイカ、冬はヤリイカへと展示を変えていく予定です。イカの展示を通して、移りゆく季節を感じられるようになっていきます。



イカ水槽



展示しているアオリイカ

もうひとつの「クラゲフォトスポット水槽」は、今の時代ならではの発想から生まれました。水族館には、時代ごとにさまざまなブームが訪れます。いま、その中心にあるのは深海魚、そしてクラゲではないのでしょうか。近年では、クラゲをより美しく見せる展示や、思わず写真を撮りたくなる空間づくりが各地で工夫されています。そうした流れの中で、私たちもまた「写真に残したくなるクラゲ水槽」を目指しました。

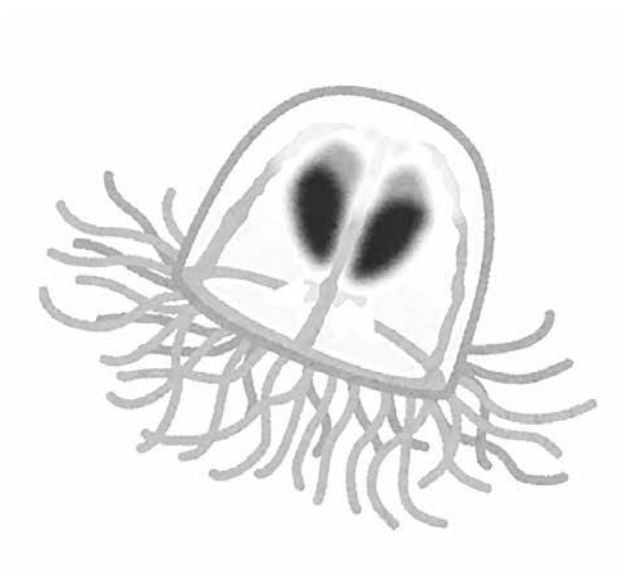
リニューアル工事ということで、限られた空間の中で「どのようにすればお客様がより良い一枚を撮れるか」を何度も議論しました。完成後も照明の角度や明るさを調整し続け、試行錯誤を重ねてオープンを迎えました。オープン当初はミズクラゲ、そしてゴールデンウィークにはカミクラゲを展示し、多くのお客様に足を止めていただきました。水槽の前でスマートフォンを構え、静かにシャッターを切るお客様の姿を見るたび、大きな喜びを感じています。今後もさまざまなクラゲを展示し、そのたびに異なる表情の「一枚」と出会う場にしていきたいと考えています。



イカ水槽とクラゲフォトスポット水槽の全体像



クラゲフォトスポット水槽



「青森県の海の生物カード」のお知らせ

青森県営浅虫水族館

青森県営浅虫水族館では、「青森県の海の生物カード～生物・漁業・環境問題を楽しく学ぶ～」を作成いたしました。様々な方に、青森県の海で見られる多彩な生き物や、漁業、環境の大切さを知って貰うために開発しました。

カードは54枚で海の生物などがデザインされ、生き物に関連する漁業などの説明があります。



①図鑑として、②トランプとして、③かるたとして、また、④オリジナルのバトルゲームとして学んだり、遊んだりすることができます。

特にバトルゲームは、「マリンガーディアンズ」と言い、海の世界連鎖を学べる内容で、魚がプランクトンを食べ、その魚を大きな魚が食べ、人間が漁業でそれらを一網打尽にする。環境破壊もあれば環境保全で救うこともできるワクワクする内容となっており、家族で楽しむことができます。

カードは、ホームページのサイトからダウンロードし印刷することができます。また、サイトには「マリンガーディアンズ」の遊び方動画が掲載されており、ルールを簡単に覚えることができます。



専用サイト



大腿骨における広範囲骨欠損を同種凍結保存骨によって再建したイヌの大腿骨癒合不全の1例



図1. 初診時のX線写真。左：頭尾側像、右：側方像。骨幹は融解し、近位と遠位の骨幹端のみに正常な骨質が観察された。



図2. 初診時のX線写真。健常側大腿骨の頭尾側像(左)と側方像(右)。側方像で患側の大腿骨の骨長が健常側の約1/2まで短縮していることがわかる(矢印)。



北里大学附属動物病院

動物種：イヌ 品種：ヨークシャーテリア 性別：去勢オス
年齢：2歳7ヶ月齢 体重：3.2 kg

稟告：右側大腿骨骨折治療後の癒合不全を主訴として紹介来院

検査所見および経過

全身検査：右側後肢の挙上性跛行、他に異常なし。

血液検査：異常なし。

X線検査：右側大腿骨骨折の癒合不全。骨幹皮質骨の融解と重度の骨短縮(正常肢の約1/2)を認める(図1, 2)。

経過：本学来院の14ヶ月前より、他院にて計4回の手術が実施されたが骨癒合に至らず。詳細な手術内容および経過は不明。

<治療計画および術式>

複数回の手術によって、重度の骨短縮と骨融解が認められたため、初診時には断脚を勧めたが、飼い主の強い希望によって同種凍結保存骨を用いた再建術を行うことになった。感染の存在は疑っていたが、さらなる手術侵襲が骨癒合の可能性を低下させる可能性を考慮し、辺縁切除、洗浄および骨移植を一期的に行った。大腿骨骨幹では広範囲な辺縁切除を余儀なくされ、健常な骨は遠位と近位を合わせて正常な骨長の30%程度しか残らなかった。パルス洗浄後、イヌの凍結保存大腿骨を用い、2.0mmリコンストラクションプレートと1.5mmカットプルプレートによって固定した。移植骨の長さは55mmであり、大腿部の筋拘縮によってこれ以上の骨延長は不可能であった(図3, 4)。

<細菌培養結果と抗生物質治療>

術中スワブからは *Staphylococcus pseudintermedius* (MRCNS) が検出され、感受性があるバンコマイシン(IV)とホスホマイシン(PO)の投与で治療を開始し、14日間継続した。以後、抗生物質投与をホスホマイシン(PO)のみとし、さらに35日間継続した。

診断：大腿骨感染性癒合不全

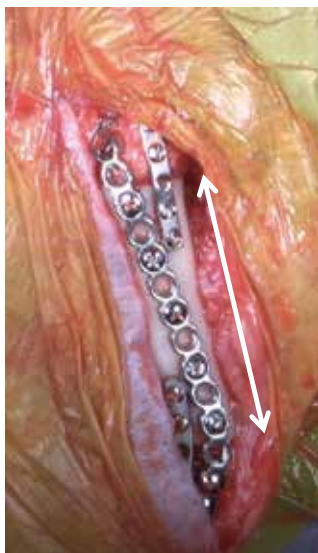


図3. 術中写真。矢印の範囲が移植骨。



図4. 手術直後のX線写真。左：頭尾側像
右：側方像。

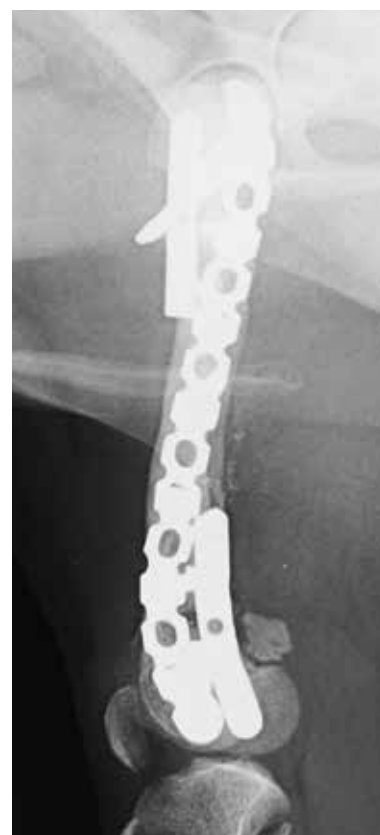


図5. 術後281日目のX線写真。
上：頭尾側像、下：側方像。

北里大学附属動物病院

<経過>

術後7日目には患側への軽い負重が観察された。その後、患者は術後24日目に退院とし、外来にて術後56、92、281日目にX線撮影と歩様観察を行った。術後56日目には脚短縮による跛行はありながらも自宅では骨折前と同じ生活を送れるようになっており、281日目にはドッグランでの全力疾走が可能になっていた。また、281日目にはX線上、移植骨は自己骨と癒合し、骨幅も本来の自己骨に近いサイズまでリモデリングされていた(図5)。

<ノート>

通常、感染がある骨欠損では、初回手術で細菌培養材料の採取、患部のパルス洗浄、辺縁切除を行った後、創外固定による一時固定を行い、感染の終息を待ってから骨移植を行う。しかし、今回は新たな手術による患部への侵襲と、飼主の金銭的負担を考慮してすべてを一期的に行った。本症例の骨移植が成功した最も大きな要因は、手術直後から患肢への負重が認められたことにあると考えている。また、当初より骨移植を計画していたため、骨の辺縁切除を大胆に行ったことも一つの要因である。今回使用した移植骨長は55mmであり、筆者が経験した小型犬の骨移植では最も長い。これは、ヒトにおける無血管の遊離骨移植では決して癒合が認められない長さである。また、ヒトにおける遊離骨移植では最初に移植骨が吸収され、その後に骨のリモデリングが生じることが多い。しかし、動物の骨移植ではこの骨吸収が観察されず、骨吸収とリモデリングが同時に進行している印象を受ける。これらはあくまで私感ではあるが、他の症例での経験も含めて移植骨と自己骨の癒合機序は動物とヒトでは大きく違うように感じている。確かに、感染が存在する状態でも骨癒合が進行することは立証されているため、今回の治療法は完全に否定されるものではないが、このような骨折治療は時として原因菌や患者の“タチ(性質)”を含む運にも大きく左右されるため、再現性に対する自信は全く持てないのが正直なところである。

担当医：小動物第1外科学研究室

左近允 巖

犬の細菌性膀胱炎を伴う膀胱内ポリープの1例

北里大学附属動物病院 小動物診療センター

動物種：イヌ 品種：狆
 年齢：12歳1ヶ月齢 性別：避妊雌 体重：9.1 kg

●主訴

膀胱内腫瘍物からの出血を疑う血尿

●稟告

数日前より血尿が認められ、超音波検査にて膀胱内に腫瘍物を認めた。腫瘍物の精査を希望して本学附属動物病院を受診した。既往として、9年前より細菌性膀胱炎の再発を繰り返しており、約4年前から尿漏れも度々観察されていた。

●身体検査

血尿が認められた。排尿時の前半尿は黄色で、後半尿は赤色。排尿回数は、現在10回/日、以前は4～5回/日。その他特記すべき所見なし。

●超音波検査

膀胱体部腹側に約19×11×9 mmの腫瘍物を認めた。腫瘍物の基部は明瞭で、膀胱粘膜への浸潤は認めない（図1）。リンパ節腫脹（-）、その他腫瘍物は認められなかった。

●X線検査

膀胱内に異常は認められず、その他臓器にも特記すべき所見なし（図2）。

●血液検査

全血球計算と血液生化学検査では、特記すべき所見は認められなかった。

●尿検査

尿は混濁した黄色尿であり、比重 1.020の不完全濃縮尿、pH 8.5、蛋白質≧300 mg/dl、糖（-）、ケトン体（-）、潜血（+++）、WBC（+）、ビリルビン（+）、ウロビリノーゲン 0.1であった。尿沈渣では赤血球 >100/hpf、WBC 5-20/hpf、移行上皮 5-20/hpfが観察された。さらに、多数の菌塊とストルバイト結晶を認めた（図3）。尿は細菌培養検査・薬剤感受性検査に提出した。



図1 膀胱体部腫瘍物の超音波像



図2 腹部X線画像（RL/VD像）

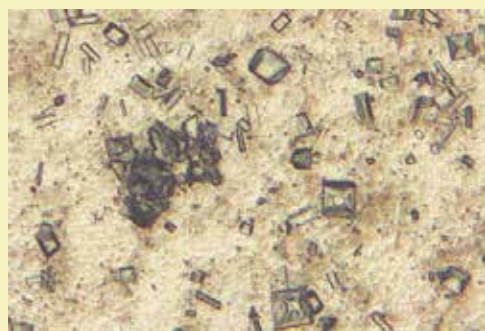


図3 尿沈渣

●CT検査

膀胱内腫瘍物以外に特記すべき所見なし（図4）。

●膀胱鏡検査

膀胱内腫瘍を採材した。病理組織診断の結果、腫瘍物の組織は表層の移行上皮が軽度肥厚し、粘膜下にリンパ球やマクロファージの浸潤が認められた。腫瘍性変化はなく、膀胱内ポリープの可能性が示唆された（図5）。

●診断・治療方針

尿沈渣ならびに病理検査の結果から、細菌性膀胱炎による膀胱内ポリープと診断した。治療方針は、薬剤感受性試験結果に基づいた抗菌薬の内服により細菌性膀胱炎を治療し、療法食である結石融解性フードによりストルバイトを融解させることである。

●治療経過

療法食を開始するとともに、尿の薬剤感受性試験結果に基づき、セファレキシン（約13.8 mg/kg、BID、po）の投与を開始した。投薬10日後には血尿は改善傾向を示し、排尿回数も減少した。

療法食開始約1か月後、臨床徴候は変化なく、再度尿検査を実施した。尿沈渣中では、細菌塊とストルバイト結晶の消退を確認し、ゴースト赤血球のみが観察された（図6）。また、超音波検査では膀胱内ポリープの大きさはわずかに縮小していた。

現在は療法食を終了し、市販フードへ変更したうえで紹介元動物病院にて経過観察を継続している。現時点では、外科的切除は不要と考えているが、今後の臨床経過によっては外科的介入を検討する必要がある。

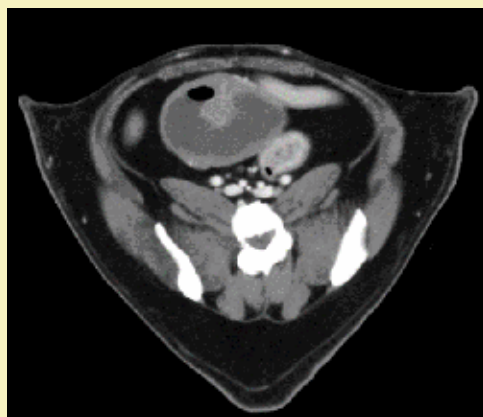


図4 膀胱体部腫瘍物のCT像

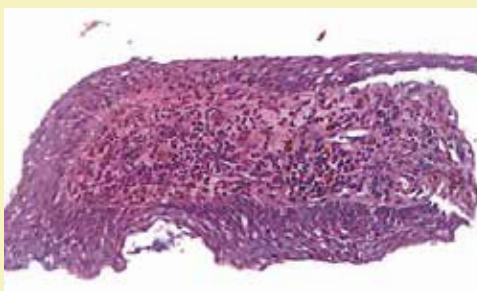


図5 病理組織診断

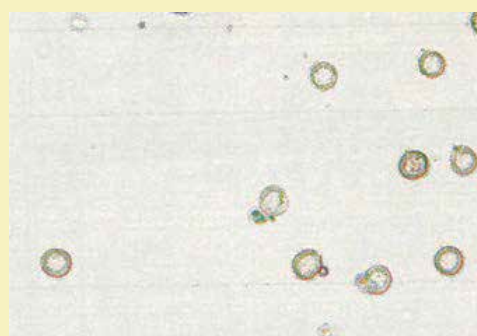


図6 治療開始後の尿沈渣

●ノート

本症例で認められた膀胱内ポリープは、慢性的な膀胱粘膜への刺激や炎症に続発して生じる非腫瘍性増殖性病変であり、犬では反復性あるいは慢性的細菌性膀胱炎との関連が報告されている。本症例は抗菌薬投薬後に臨床徴候が改善しているため細菌性膀胱炎に起因していた可能性が高いと考えられた。さらに、超音波検査において膀胱内ポリープの軽度な縮小が認められたことから、病変形成に慢性炎症が深く関与していたことが示唆された。今後は、病変の腫大による排尿障害、持続的な血尿など臨床徴候の悪化がある場合には外科的介入が検討される。本症例では、抗菌薬投薬後に臨床徴候の改善および病変の縮小傾向が認められたことから現時点で外科的介入の適応は低いと判断した。しかしながら、長期間にわたり細菌性膀胱炎を反復していたことから、今後も再発リスクは高いと考えられる。本症例は、定期的な尿検査および超音波検査による経過観察を行い、細菌性膀胱炎の早期発見と治療を行うことが重要である。

参考文献

1. イヌとネコの腎泌尿器病学, ファームプレス, 2024.
2. 犬と猫の腎臓病診療ハンドブック, 緑書房, 2021.
3. イヌとネコの腎臓病・泌尿器病: 丁寧な診断・治療を目指して, ファームプレス, 2015.

執筆：大高 裕也（北里大学獣医学部 小動物第2内科 助教 / 附属動物病院 一般内科）

仕事の色と職業の色 ～ 獣医師の色は、何色なのか ～

色にこだわる人間

〇色、いろいろ

私たちは、思っている以上に「色」に支配されているのではないのでしょうか。好きな色、似合う色、避けたい色。そして、気づかぬうちに“仕事”にも色を見えています。ちなみに、私の好きな色はグリーンです。

かつて仕事の世界は、白（ホワイトカラー）と青（ブルーカラー）の二色で語られる単純な構図でした。もし、世界中のあらゆる職業に一斉にペンキを塗ったなら、現代社会はきっと、鮮やかなモザイク画のように輝くでしょう。

仕事を色に例えると現代では、パレットの中で働いていると言っても過言ではないのでしょうか。

1 狂騒の1920年代：すべてはここから

仕事の色のご概念は、100年前のアメリカのようです。ジャズが街角に溢れ、フラッパーが自由を謳歌し、アール・デコの直線美が摩天楼を飾った時代です。

製造業の爆発的成長と消費社会の誕生は、労働者を二つの象徴的な色に塗り分けたようです。

①ブルーカラー（青の現場力）

油污れに耐える青い作業着は、彼らの誇りそのものです。

工場労働者だけでなく、交通誘導員、配達員、電気技師など、「身体と技術で世界を動かす

人々」を指す言葉へと進化しました。

②ホワイトカラー（白の思考力）

白いワイシャツを纏い、情報と戦略を武器に働く人々。事務職からエンジニア、営業職まで、「社会の仕組みを編む頭脳労働者」の象徴です。

2 現代のパレット：曖昧化への移行

社会が成熟するにつれ、白と青の境界は不明瞭になり、その間にはグラデーションが生まれました。

①グレーカラー

企画（白）と現場（青）をつなぐ色。

設計図を書きながら工具も握る、現場主義のエリート達を意味しています。

②ピンクカラー

看護師、歯科衛生士や保育士などの専門職の色。

かつて女性のイメージが強かったので、ピンクカラー。今やジェンダーレスにより性別を超えた色として固定化されています。

③グリーンカラー

環境の色。なんとなく、森林草木の色が自然として環境の色と認識されました。そのため、エコの色となったのでしょうか。再生の色とも呼ばれます。

再生可能エネルギー、リサイクル、自然保全など、地球の未来を担う職業に与えられた色です。



国会議事堂
国内を代表する
アール・デコの建築
本議会場内



フラッパー

1920年代に欧米で流行した女性のファッション。

ショートヘアのボブカット、濃いメイクアップ。

第一次世界大戦終結直後の混乱した時代の文化。この時代に青と白ができた。

3 最近の色：さらなる進化・複雑化する色

さらに、既存の枠組みを超えた“光る色”も登場しました。

①ゴールドカラー（黄金の自由）

雇われるのではなく、自ら仕事を創り出す人々。ホワイトカラーの上に行く「高度な専門的知識とスキルを持つ労働者」。人生のハンドルを100%自分で握るエリート層と定義されています。

②メタルカラー（鋼鉄の知能）

単なる作業員でも、単なる机上の事務員でもないようです。「最先端の科学技術を理解し、それを実際に現場の機械やツールを使って形にできる人」を指すと言われています。最先端技術を操る技術者、デジタル化が進む現代の色とされています。

このように、仕事の色は進歩してきています。誰かがこのように色分けをしたのでしょうか、うまく考えていると思いませんか。

さて、それでは職業には色はあるのでしょうか。

○医師・歯科医師・薬剤師の象徴色は？

この仕事の方々は、ゴールドカラーに属するようです。この職業の人は白衣を着ています。医療の世界は、白衣の白一色に見えるかもしれません。しかし、職能ごとに異なる“色の考え方”が潜んでいるようです。

1 医師の色：生命を照らす

医師の象徴色は、「緑」と言われます。これは単なるイメージではなく、歴史的な背景を持つ色です。

緑は、生命・再生・治癒の色。古代ギリシャの医神アスクレピオスの杖に絡む蛇も、生命力の象徴として緑のイメージと結びついてきました。

さらに近代に入ると、手術室の壁や手術着が緑や青になったのは、手術時の血の赤を中和し、視覚疲労を軽減するため。

医師が「緑」に包まれるのは、命を救う現場で最も集中力を必要とする者の色と言われています。

白衣の下に流れる医師の色は、静かで深い、生命の緑と言われています。

2 歯科医師の色：精密と清潔を象徴する

歯科医師の色は、しばしば「白銀（シルバー）」として表現されます。これは、歯科医療が持つ独特の世界観から生まれた色です。

白銀は、金属器具の輝き、ミラーに反射する光、精密機器の冷やかな質感及び歯科材料の金属色を連想させます。こうした“歯科ならではの光景”を象徴しています。

歯科医療は、医療の中でも特に「ミリ単位の精度」「清潔さと技術の融合」が求められる領域です。

3 薬剤師の色：知識と調合

薬剤師の色は、古くから「琥珀（こはく）」と結びついてきました。

薬瓶は、光を通しながらも中身を守るため茶色（琥珀）です。薬草を乾燥させたときの、深い黄金色の影響もあるのかも知れません。琥珀は、知識の蓄積、時間の重み、自然の恵みを象徴する色とされています。

薬剤師は、医療の中で唯一、「物質としての薬」を扱う専門家です。その手の中には、化学と自然、伝統と科学が同居しているようです。

○それでは、獣医師の象徴色は？

我々の仕事も実は、ゴールドカラーに属するそうです。何となく自然（動物）を相手にしているため土色に近いゴールドなのではないでしょうか。

さて、ここからが本題です。象徴色は「紫」という説があります。確かに日本獣医師会の会旗の色は、深みのある紫色の地色に、白抜きの紋章が映える色となっています。

インターネットで「獣医師の色 紫 由来」と検索すると「獣医師の色としての紫色の由来は、古代から高貴な色とされてきたことにあります。古代ローマやエジプトでは、紫色は帝王の色とされ、権力の象徴として使用されていました。日本でも、聖徳太子の冠位十二階において紫色は高い

位階を示す色とされており、獣医師としてもその色は高貴さや知性を象徴しています」と表示されました。次に獣をとり「医師の色 紫 由来」と検索したら、全く同じ検索結果となりました。唖然としました。インターネットの情報を信じてはいけません。飛鳥時代の冠位十二階と関連付けされるのですから、とても胡散臭い話です。

そこで、さらに詳しく調べてみました。

その結果、獣医師の色は、明治期の日本帝国陸軍に由来しているのではないかと考えました。

戦場の中で兵士たちは一瞬で相手の職能を見極める必要がありました。そのため、色を利用して兵を分けていました。具体的には襟章、制帽や肩章を色分けしていたもので兵科色と言います。ちなみに、現在も陸上自衛隊では兵科色を使用しているようです。

明治6年の陸軍創設時には、兵科色は指定されていなかったようですが、獣医官は明治8年から明治18年まで萌黄に指定されており騎兵と同じ色でした。次に、明治19年から明治33年までは深緑で、医官と同じ色でしたが、明治45年から獣医官は紫となっています。その後、昭和15年以降では兵の色は統一されたようですが、軍楽、会計、医官並びに獣医官の兵科色は継続して使用されました。これは日中戦争の長期化により兵員・物資の大量動員が必要なため、軍服生産を標準化し大量

生産する必要がある、効率を考え兵科色の一部を廃止したそうです。

なぜ、獣医官は紫だったのでしょうか。日本が手本にしたドイツ軍の獣医兵科色が、カーマインだったからと言われています。カーマインは、赤に少し青みが混ざった色です。これを日本の伝統的な色感覚に当てはめ赤よりも紫に近いと認識されたようです。また、歩兵の赤と間違わないように紫にしたとの説があります。

疑問が残ります。明治8年から明治33年までは医官と獣医官は同じ色です。しかも萌黄から深緑と変化しています。これについて、さらに調べてみると明治初期の軍隊はフランス式だったことが影響しているようです。当時、フランスでは医師や獣医などを区別せず衛生部として緑系の色を割り当てていました。これを日本が採用した際に萌黄（強い黄緑）となったようです。つまり明治18年まではフランス式でそれ以降はドイツ式となります。その後、明治45年に、軍組織の近代化に伴い職能の分化が明確化され、医師の社会的地位を反映し、独自の「深緑」をそのアイデンティティとして固定しました。また、獣医師を軍医の「附属」や「下位職種」ではなく、独立したプロフェッショナルとして明確に定義したそうです。話が前後しましたが、獣医師の色は紫と言われています。

陸軍兵科色の変遷

兵科	明治6年	明治8年	明治19年	明治33年	明治45年	大正14年	昭和15年
歩兵	赤	赤	赤	赤	赤	赤	—
砲兵	黄	黄	黄	黄	黄	黄	—
騎兵	萌黄	萌黄	萌黄	萌黄	萌黄	萌黄	—
工兵	白	白	鳶	鳶	鳶	鳶	—
憲兵			紺	紺	黒	黒	—
輜重兵	紫	紫	藍	藍	藍	藍	—
軍楽	紺青	紺青	紺青	紺青	紺青	紺青	紺青
会計		藍	銀茶	銀茶	銀茶	銀茶	銀茶
軍医		萌黄	深緑	深緑	深緑	深緑	深緑
獣医		萌黄	深緑	深緑	紫	紫	紫

生成AIで遊んでみた

家 保 O B

会議の休憩時間、私が他の先生と生成AIの話をしていたときのことだ。会話の中で「AI」という言葉が聞こえたのだろう、瞬間、隣にいた別の先生が、真顔でこう聞き返してきた。「人工授精の話？」——なるほど、そっちのAIか。この先輩、以前は畜産試験場にいたのだった。時代も職場も変われば、同じ略語でも意味がまったく違うのだと妙に納得した。

いまやAIといえば人工知能のことだが、私が若いころにはそんな未来的な響きはどこにもなかった。県職員となって初めてパソコンに触れた日のことを思い出す。平成元年の9月頃だったのだろうか。県がパソコン（たしかNEC PC-9801RX）と通信装置一式を導入するというので、青森市造道にあった旧青森家畜保健衛生所の2階会議室に、比較的若い6家保の職員が集められた。当時の我々は、「これがマウスです」「これがハードディスクです」と説明を受けながら、まるで近代化の音が聞こえてくるような気持ちで頷いていた。なにせ、これから“パソコンの時代”が来るらしいのだ。右も左も分からないながらも、皆どこかワクワクしていた。

一方その頃、家電売り場には「AI搭載電子レンジ」「AI炊飯器」「AI辞書搭載ワープロ」などの札が踊っていた。今思えば、あれはAIというより“ちょっと気の利く家電さん”程度の機能だったのだが、当時の我々は「なんかすごいらしい。」「機械が考えてくれるらしい。」と、ふわっとした期待を抱いていた。今振り返ると、その素朴な驚きもまた時代の空気だったのだと思う。

そして令和の今。AIは文章を書き、絵を描き、人と会話し、仕事まで手伝うようになった。あの頃、マウスの持ち方を習っていた私が、いま生成AIに相談しているのだから、時代の流れというのは本当に面白い。

ここで、生成AIの種類を簡単にまとめてみる

と、①テキスト生成 ②画像生成 ③動画生成 ④音声生成 ⑤音楽生成 ⑥コード生成（プログラミング支援）と、大きく6つに分類されるようだ。このうち、ユーザーの指示に合わせて文章を作成するのがテキスト生成AIで、代表的なものとしてChatGPT、Claude、Gemini、Microsoft Copilotの4つが挙げられる。

試しに「雪、八甲田山、明治。200字」と、GeminiとMicrosoft Copilotに入力してみた。すると、Geminiは歴史的事実を中心にまとめ、Microsoft Copilotは文学的な表現で「兵士たち」という語を用い、雪中行軍遭難事件を意識したような文章を返してきた。どちらも、私にはとても書けないほど立派な内容だった。

さらに「画像生成 八甲田山 イラスト」と入力してみると、こちらそれぞれ個性のある絵を描いてくれた。

技術の進歩というのは、気づけば想像を軽々と追い越していくものだ。これから先、生成AIがどんな表現を生み出すのかと思うと、少し不安もあるが、それ以上に楽しみが大きい。そして、こうして振り返ってみると、技術の進歩に戸惑いながらも面白がってきた自分がある。結局のところ、人は新しい道具に驚き、慣れ、使いこなし、また次の驚きへ向かっていくのだろう。AIとの付き合いも、きっとその延長線上にあるのだと考える。

最後に、この文章はヒトが書いたものか、生成AIが書いたものか、どちらでしょうか？

分かりますか。

Geminiの文章

明治35年1月、八甲田山。日本軍の雪中行軍遭難事件は、近代登山史・軍事史に刻まれる悲劇です。ロシアとの開戦を控え、寒冷地戦を想定した青森歩兵第五連隊は、猛烈な寒波の中で行軍を強行しました。しかし、マイナス20度を下回る極寒と腰まで埋まる深雪、そしてホワイトアウトが彼らを襲います。最新装備のない時代、210名中199名が命を落とす惨事となりました。雪山の厳しさと、自然への畏怖を今に伝える歴史の断片です。

Microsoft Copilotの文章

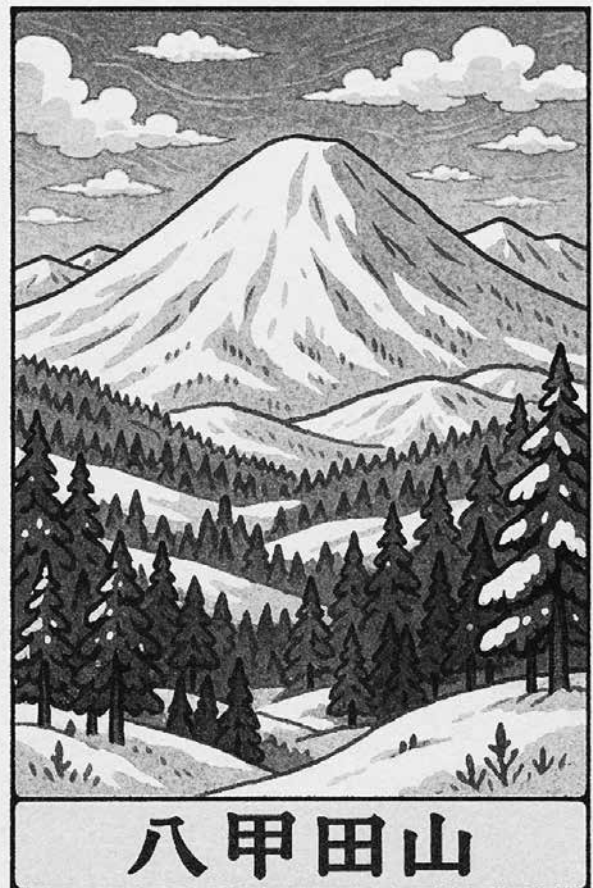
八甲田山に降り積もる雪は、明治という時代の光と影を静かに封じ込めている。近代化の熱気が国を包む一方で、自然の猛威は人の力をはるかに超えていた。白い荒野に踏み出した兵士たちは、国家の理想と現実の狭間で、ただ雪の冷たさだけが確かなものとして迫ってくるのを感じた。八甲田の吹雪は、明治の夢を試すかのように容赦なく人々をのみ込み、後に残ったのは、文明の歩みがいかに脆いかを語る静寂だけだった。

雪、八甲田山、明治。200字 と入力



八甲田山
FEB/9, 2026

Geminiのイラスト



八甲田山

Microsoft Copilotのイラスト

獣医師会に入会された公務員獣医師の方々を紹介いたします

青森県では、令和7年度の中途採用者として2名、令和8年度の新採用者として5名が採用されています。

現在のところ入会された方は、齋藤さん、高橋さん、外崎さん、柴田さんの4名です。

○ 齋藤 大助（さいとう だいすけ） 西北支部獣医師会



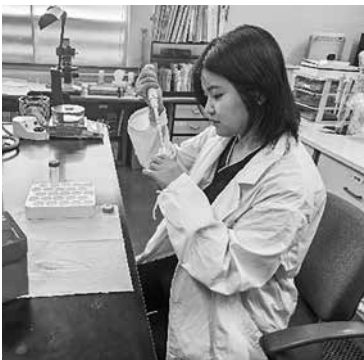
はじめまして、令和7年12月1日から西北農林水産事務所つがる広域家畜保健衛生所に配属になり、獣医師会に入会させていただきました齋藤大助と申します。

出身は北海道小樽市です。前職は北海道職員として室蘭市の保健所で食品衛生業務に従事していました。

休日は十二湖や十三湖や西目屋村の滝などを見に行き、過ごしています。猫が一匹家におりますが犬派なのでご飯をあげるまえにお座りとお手をさせるようにしています。

現職では、職場の方々から、温かいご指導をいただきなんとか業務をこなせるようになってきました。今後も、県民の皆様のお役に立てるよう日々精進していきますので、よろしくお願いいたします。

○ 高橋 悠（たかはし はるか） 西北支部獣医師会



今年度から西北農林水産事務所つがる広域家畜保健衛生所に配属になりました高橋悠です。

出身は青森県黒石市で、大学は酪農学園大学でゼミは大動物内科で日々往診に行き、乳用牛の治療や繁殖関係を学んでおりました。

家畜保健衛生所ではゼミで得た技術が生かされています。社会人経験がない私にとっては慣れない日々で心に余裕がありませんが、全てのことが新鮮で学ぶことがたくさんあり楽しいです。

獣医師は動物を治療するだけではなく、公務員獣医師として病気を予防することや蔓延させないことも仕事の1つだと考えています。そのやりがいを持ち、これからたくさん経験を積み、農家さんや仕事を一緒にする皆さんに信頼していただけるように日々精進したいと思っています。これからどうぞよろしくお願いいたします。

○ 外崎 佑果（とのさき ゆうか） 上十三支部獣医師会

今年度より青森県上北農林水産事務所中央家畜保健衛生所に配属となりました、外崎佑果です。

出身は五所川原市で、今年の春に北里大学を卒業して新採用職員として働くことになりました。現在は、衛生指導課で病性検査を行ったり、農場に行って採血をしたり、一つ一つの業務を一生懸命覚えている最中です。

趣味はいろんなところに行って美味しいものを食べるのが好きなので、県内外への遠出や旅行をよく計画しています。

まだ慣れない環境で先輩方についていくのに必死ですが、これから様々なことを吸収しながら公務員獣医師として頑張っていきたいと思っていますので、よろしくお願いいたします。



○ 柴田 紗希（しばた さき） 上十三支部獣医師会

今年度より青森県食肉衛生検査所に配属となりました、柴田紗希と申します。

出身は青森市で、地元青森県で獣医師として勤務できることを大変嬉しく思っております。現在はと畜検査員として、主に牛の検査業務に従事しております。まだ慣れないことも多くありますが、日々多くのことを吸収しながら成長していきたいと考えております。

趣味は高校から始めた弓道です。数年間ブランクがあり久しぶりに再開したので、体力と技術を身につけるためにトレーニングに励んでいます。

青森県の獣医師として地域に貢献できるよう、日々精進してまいります。よろしくお願いいたします。



令和9年度 公益社団法人青森県獣医師会検査員募集

公益社団法人青森県獣医師会では、平成15年度から青森県の委任を受け、28名の本会獣医師会員が県内6か所の食鳥処理場において食鳥検査業務に従事しております。

令和9年度採用予定の検査員（獣医師）を下記のとおり募集します。

1 募集人員

常勤検査員 若干名

2 応募資格

- (1) 獣医師（本会会員であること。）
- (2) 鶏病性検査の経験を有すること
- (3) 満65歳以下（採用時）
- (4) 運転免許証を所持し、自家用車で通勤可能であること

3 募集期間

令和8年10月15日から10月31日まで

4 業務内容

食鳥処理場において食鳥検査業務等に従事

5 採用予定年月日

令和9年4月1日

6 就業場所

- (1) 県内7食鳥処理場（八戸市、十和田市、三沢市、横浜町、五戸町、田子町、階上町）
- (2) 公益社団法人青森県獣医師会
食鳥検査センター（十和田市）

7 提出書類

- (1) 履歴書（市販のもので可）
- (2) 獣医師免許証の写し
- (3) 提出先：募集期間内に右記の問い合わせ先へ提出（郵送可）。

8 選考方法

- (1) 書類審査の後、面接試験を実施します。
- (2) 面接試験の日時・場所は、後日応募者に通知します。
- (3) 採用の場合、直接本人に通知します。

9 待遇・勤務条件等

- (1) 給与：本会給与規程による
- (2) 賞与：年間 5.55か月
- (3) 諸手当：通勤手当、住居手当、寒冷地手当
単身赴任手当、移転料等あり
- (4) 福利厚生：健康診断、社会保険
- (5) 退職金制度：有
- (6) 勤務日数：原則として週5日
- (7) 勤務時間：基本7時間45分
（8：30～17：00 休憩時間12：00～12：45）
※ただし、食鳥処理場の稼働時間に合わせ出退勤する。
- (8) ①休暇・休日：日曜、祝日、年末年始
②有給休暇（食鳥処理場稼働日は勤務）

10 その他

応募書類等は、応募に関する事務のみに使用し、その他には使用しません。

【お問い合わせ先】

〒030-0813

青森県青森市松原二丁目8番2号

☎ 017-722-5989 FAX 017-722-6010

公益社団法人青森県獣医師会事務局

担当：盛 田

◎会員の動向

(1) 会員数（正会員） (人)

令和7 年度末	令和8年度		令和8年 6月15日 現在
	入 会	退 会	
381	8	5	384

(2) 支部別正会員数 (人)

青 森	弘 前	三 八	西 北	上十三	下 北	計
49	27	107	28	153	20	384
5	0	3	1	10	2	21

(下段は名誉会員数で内数)

(3) 入会会員

支 部	氏 名	所属（勤務先等）
西 北	齋藤 大助	つがる広域家畜保健衛生所
	高橋 悠	
上十三	石野 育実	ポー動物病院
	小山田友大	小山田獣医科クリニック
	小山田梨奈	Royal Veterinary College
	斉藤 陽太	青森県農業共済組合
	柴田 紗希	青森県食肉衛生検査所
	外崎 佑果	中央家畜保健衛生所

(4) 退会会員

支 部	氏 名	退会年月日
三 八	赤坂 隆平	令和8年5月14日
	池田 智康	令和8年3月31日
	小笠原美穂	
	森野 芳幸	
	千葉 忍	

(5) 退会賛助会員

会員数	1
名 称	株式会社クレディセゾン

(6) 逝去会員

支 部	氏 名	逝去年月日	年齢
上十三	濱岡 隆文	令和7年12月24日	73歳

◎事務日誌

1 事務関係

(1) 令和7年度第6回理事会

期日：令和8年3月11日（水）

場所：青森市 青森県獣医師会館

参集：理事、監事、税理士法人事務所担当

内容：給与調整手当支給、令和8年度事業計画・収支予算案、食鳥検査事業委託に係る八戸市との覚書、第78回定時総会等について

出席：事務局長、事務局次長、事務局センター所長

(2) 令和7年度決算監査

期日：令和8年5月13日（水）

場所：青森市 青森県獣医師会館

参集：監事、税理士法人事務所担当

内容：令和7年度帳簿、証拠書類、残高等確認

出席：会長、事務局長、事務局次長、事務局センター所長ほか

(3) 令和8年度第1回理事会

期日：令和8年5月22日（金）

場所：青森市 青森県獣医師会館

参集：理事・監事

内容：令和7年度事業報告、計算書類、令和8年度経費の額、名誉会員推薦、役員選任、食鳥検査法に基づく指定検査機関申請等について

出席：事務局長、事務局次長、事務局

食鳥検査センター所長、税理士法人事務所担当

2 食鳥検査事業関係

(1) 令和7年度第2回検査員研修会

期日：令和8年2月7日（月）

場所：十和田市 南コミュニティセンター

内容：永年勤続者表彰、各研修会・講習会等出席者からの伝達講習等

出席：検査員、センター所長、事務局長ほか

(2) 令和7年度全国食鳥指定検査機関協議会役員会

期日：令和8年2月26日（木）

場所：鹿児島市 ホテルマイステイズ鹿児島天文館

内容：令和7年度事業実績、計算書類等

出席：会長、事務局長

(3) 令和7年度第5回特定事業運営委員会

期日：令和8年3月6日（金）

場所：青森市 青森県獣医師会館

内容：令和8年度事業計画、収支予算案ほか
出席：各委員、センター所長、事務局長ほか

(4) 指定検査機関立入検査

期日：令和8年3月16日（月）～17日（火）
場所：青森県獣医師会館 食鳥検査センター
内容：事業内容・手数料収納精査、備品等確認
出席：県担当職員、センター所長、事務局長ほか

(5) 令和8年度辞令交付式

期日：令和8年4月1日（水）
場所：十和田市 食鳥検査センター
内容：昇格昇任検査員
出席：会長、センター所長、事務局長ほか

(6) 令和8年度第1回特定事業運営委員会

期日：令和8年5月18日（月）
場所：青森市 青森県獣医師会館
内容：委員委嘱、令和7年度事業実績、
計算書類、指定検査機関申請、
業務規程申請変更等
出席：各委員、センター所長・次長
事務局長、事務局次長ほか

(7) 令和8年度主担検査員会議

期日：令和8年5月27日（水）
場所：十和田市 食鳥検査センター
内容：センター事務局連絡事項、各主担検査
員からの報告事項等
出席：各主幹等検査員、会長、センター所
長・次長・室長、事務局長、事務局次
長ほか

(8) 令和8年度全国食鳥指定検査機関協議会総
会

期日：令和8年6月4日（木）
場所：東京都 日比谷松本楼
内容：令和7年度事業・監査報告、令和8年
度事業計画・予算案、会費の額等
出席：センター所長、事務局長、事務局次長

3 狂犬病予防・動物愛護関係事業

(1) 令和7年度上十三支部狂犬病予防注射事業
推進対策会議

期日：令和8年1月27日（火）
場所：十和田市 サン・ロイヤルとわだ

(2) 令和7年度三八支部狂犬病予防注射推進会
議

期日：令和8年2月12日（木）
場所：八戸市 八戸プラザホテル

(3) 令和7年度弘前支部狂犬病予防事業
連絡会議

期日：令和8年2月19日（木）
場所：弘前市 アートホテル弘前シティ

(4) 令和7年度青森県動物愛護推進協議会

期日：令和8年2月20日（金）
場所：青森県動物愛護センター
出席：会長

4 部会開催関係

(1) 会報部会

期日：令和8年5月25日（月）、6月15日（月）
場所：青森市 青森県獣医師会館
内容：令和8年7月発刊・第206号会報編集
出席：会報部会委員、事務局

5 東北獣医師会連合会関係

(1) 令和7年度東北地区獣医師会事務局会議

期日：令和8年2月10日（火）
場所：Web会議
内容：令和8年度事業計画、予算案等
出席：事務局長、事務局次長、事務局

(2) 令和8年度東北地区獣医師会事務局長会議

期日：令和8年4月2日（木）
場所：山形市 山形テルサ
内容：令和8年度事業計画・予算案、会費
額、大会・学会計画等
出席：事務局長、事務局次長

(3) 令和8年度

東北獣医師会連合会理事会・代議員会
期日：令和8年4月3日（金）
場所：山形市 山形テルサ
内容：令和8年度事業計画・予算案、会費額
大会・学会計画、役員改選等
出席：会長、副会長、事務局長、事務局次長

6 日本獣医師会関係

(1) 令和7年度第6回理事会

期日：令和8年3月12日（木）
場所：Web会議

参集：藏内会長ほか各役員、日獣事務局
出席：会長

(2) 第1回役員候補者推薦管理委員会

期日：令和8年3月30日（月）

場所：日本獣医師会会議室

参集：委員会委員、日獣事務局

出席：事務局長

(3) 第2回役員候補者推薦管理委員会

期日：令和8年4月30日（木）

場所：Web会議

参集：委員会委員、日獣事務局

出席：事務局長

(4) 令和8年度第1回理事会

期日：令和8年6月4日（木）

場所：日本獣医師会会議室

参集：藏内会長ほか各役員、日獣事務局

出席：会長

(5) 令和8年度第2回理事会

期日：令和8年6月22日（月）

場所：東京都 明治記念館

参集：藏内会長ほか各役員、日獣事務局

出席：会長

(6) 第83回通常総会

期日：令和8年6月22日（月）

場所：東京都 明治記念館

参集：藏内会長ほか各役員、日獣事務局

出席：会長、妻神副会長、事務局長

(7) 令和8年度第3回理事会

期日：令和8年6月22日（月）

場所：東京都 明治記念館

参集：藏内会長ほか各役員、日獣事務局

出席：会長

7 その他

(1) 家畜診療所運営委員会

期日：令和8年1月14日（水）

場所：青森市 青森県共済会館

出席：事務局長

(2) 家畜衛生・自衛防疫事業推進委員会

期日：令和8年2月13日（金）

場所：青森市 アップルパレス青森

出席：事務局次長

(3) （一社）青森県畜産協会第4回理事会

期日：令和8年2月20日（金）

場所：青森市 アップルパレス青森

出席：会長

(4) 令和7年度北里大学獣医学部学位記授与式

期日：令和8年3月5日（木）

場所：十和田市 十和田市民センター

出席：会長

(5) 家畜共済部会

期日：令和8年3月12日（木）

場所：Web会議

出席：事務局長

(6) 国スポ馬術競技リハーサル大会支援

期日：令和8年6月3日（水）～6日（土）

場所：山梨県 山梨県馬術競技場

出席：渡部・森山検査員

(7) （一社）青森県畜産協会第23回定時総会

期日：令和8年6月16日（火）

場所：青森市 アップルパレス青森

出席：会長、事務局長

8 支部関係

(1) 青森支部獣医師会

令和8年度通常総会

期日：令和8年5月21日（木）

場所：青森市 恵比須屋

(2) 弘前支部獣医師会

令和8年度通常総会

期日：令和8年4月26日（日）

場所：弘前市 アートホテル弘前シティ

(3) 三八支部獣医師会

令和8年度定時総会

期日：令和8年5月15日（金）

場所：八戸市 八戸プラザホテル

(4) 西北支部獣医師会

令和8年度通常総会

期日：令和8年5月15日（金）

場所：五所川原市 ホテルサンルート五所川原

(5) 上十三支部獣医師会

令和8年度通常総会

期日：令和8年5月14日（木）

場所：十和田市 サン・ロイヤルとわだ

(6) 下北支部獣医師会

令和8年度通常総会

期日：令和8年5月14日（木）

場所：書面開催

○入会・異動の手続きについて

本会は、社会の一員として「何かの役に立ちたい、社会をより良いものとしたい。」と考える獣医師約400名の集まりです。

会員一人一人の優れた能力を更に高めるため、各種の講習会・研修会等を開催するとともに国民生活の向上と安定のため共通の目的に向かって各種の事業を推進しています。

随時、新会員を募集していますので、お気軽にご相談ください。また、会員の方々には新会員への勧誘をお願いします。

なお、入会を希望される方は、公益社団法人青森県獣医師会のホームページ（<https://aomori-jyuishikai.jp>）から入会申込書をダウンロードし必要事項を記入の上、住居地または勤務地の支部獣医会にお問い合わせください。



青森県獣医師会支部事務局及び担当者

支部	事務局住所	担 当 者	連 絡 先
青 森	〒030-0813 青森市松原2-8-2 青森県獣医師会館内	しば た か ち こ 柴 田 香 智 子	TEL 017-723-5106 FAX 017-723-5106 E-mail:aomorisibu.vet@cap.ocn.ne.jp
弘 前	〒036-8086 弘前市大字田園3-3-24 ハイムNR105号室	なり た ゆ き え 成 田 幸 恵	TEL 0172-27-7728 FAX 0172-27-7728 E-mail:hiro10.aomori@gmail.com
三 八	〒039-1166 八戸市根城6-22-22	チットウッド ^{ともこ} 登茂子	TEL 0178-43-2819 FAX 0178-47-8820 E-mail:vetaso38@jomon.ne.jp
西 北	〒038-3514 鶴田町大字中野字花岡200-3	たか はし ゆう こ 高 橋 裕 子	TEL 090-1398-4109 E-mail:aomori-seihoku2017@outlook.jp
上十三	〒034-0093 十和田市西十二番町19-23	やなぎ さわ く み こ 柳 沢 久 美 子	TEL 0176-22-5969 FAX 0176-24-3888 E-mail:kamitousanvet@yahoo.co.jp
下 北	〒035-0076 むつ市旭町14-53	え さし か けい こ 江 刺 家 敬 子	TEL 080-3326-6858 FAX 0175-39-9939 E-mail:shimokita_vet@yahoo.co.jp

公益社団法人日本獣医師会ステイトメント

「Thanks Buddy ! 宣言 人と動物が共生する社会の実現」

公益社団法人日本獣医師会は、人・動物・環境の健全な調和を基盤とするワンヘルスの理念のもと、人と伴侶動物が互いに支え合い、その関係性が社会全体の健やかさと豊かさを育んでいく未来の実現を目指す。

伴侶動物は、私たちの暮らしに喜びや安らぎをもたらす存在であると同時に、心身の健康を支え、子どもたちの情操を育み、高齢者の生きがいや役割意識を生み出し、地域に新たなつながりや社会参加の機会をもたらしてきた。

人と動物が共に生きることは、日常の中に自然なリズムと支え合いを生み、暮らしの質や社会の豊かさを高める力となっている。

一方で、人と動物が共に生きる社会には、感染症への備え、適切な飼養管理、動物福祉の確保、環境への配慮など、科学的知見と社会的合意に基づき、継続して向き合うべき課題が存在する。

これらの課題に正面から向き合い、安心と信頼に支えられた共生のかたちを社会に根づかせていくことは、人と動物のみならず、地域や社会全体の持続可能性を高めることにつながる。

人と動物の関係は、単なる「愛情」や「個人の選択」にとどまるものではない。それは、人の生き方や地域のあり方、そして社会の未来を形づくる重要な要素である。

この社会的価値と責任の双方を正しく理解し、人と動物が共に生きることの意義を、科学に裏打ちされた言葉として社会と共有していくことこそが、ワンヘルスの理念を現実の社会へとつなぐ確かな礎となる。

我々は、志を同じくする関係団体・関係機関と連携しながら、

- ① 科学的根拠に基づく獣医療の発展と動物福祉の向上を図り、
- ② 人と動物が共に健康で幸福に暮らせる社会環境の整備に取り組み、
- ③ 教育、地域づくり、社会啓発を通じて、動物がもつ社会的価値をさらに高めていく。

人と動物が共に生きることは、個々の暮らしを豊かにするだけでなく、社会のレジリエンスを高め、未来への希望を育む力となる。

公益社団法人日本獣医師会は、人と動物が調和のもとで共生する社会の実現に向け、国民と共に歩み続けることを、ここに宣言する。

公益社団法人 日本獣医師会

会長 藏内 勇夫

令和8年3月12日



いのちみつめる。いのち育む。
公益社団法人 日本獣医師会



犬の飼育頭数が 半減する。これは、 未来の社会課題です。

とある研究者によると、
2040年に国内の犬の飼育頭数は
半減すること。

それは、
孤独をやわらげてきた存在が
減ること。

子どもたちが命と向き合う機会が
減ること。

高齢者の外出や会話のきっかけが
減ること。

伴侶動物が減る未来は、
社会がちよつと冷たくなる
未来かもしれません。

Thanks Buddy Projectは、
人も動物も温かく幸せに生きられる、
ワンヘルスな社会を育む
パートナーを募集しています。



**Thanks
Buddy!**

Thanks Buddy Projectは、
様々な企業・団体と連携し、
人と動物の共生の価値を
発信する活動をしています。

主催：日本獣医師会 協力：東京都獣医師会 お問い合わせ：thanksbuddy@nichiju.or.jp

賛同動物病院募集中!



〔編集後記〕

令和8年度の第1回目の会報をお届けします。
記事をお読み頂いたとおり、今回から年2回の発行となります。

新しい表紙はいかがでしたか？

1段組でフォントを少し大きめにしました。

また、白地に文字だけだと味気ないので青森県獣医師会のロゴを背景に残し、透過性を上げて目次の文字が読みやすいように工夫したつもりです。正式な配色のロゴも下段枠外に残しました。

世界が戦禍で包まれる一方、足元では今年始めの青森市などの大雪、除雪問題で始まり、足早に桜の季節が通り過ぎ、昨年から引き続けている熊騒動（災害）です。衛生面ではハンタウイルス、エボラ出血熱、「はしか」の流行や鳥インフルエンザ、豚熱などニュースに事欠きません。今年1月発行の本誌205号の編集後記に書いた『今年の干支である「午」年には、どんな新しい出会いがあるのでしょうか？皆様にとって良い年でありますように！』という文章を虚しく感じています。

(A.N)

原 稿 募 集

令和9年1月1日発行予定の会報第207号の原稿を募集いたします。

会員各位の投稿のほか、各支部獣医師会だよりの原稿もお願いいたします。

原稿は、次の方法で青森県獣医師会にお送りください。

締め切りは令和8年11月20日（金）です。期日までにお願いいたします。

〔原稿の提出方法〕

原稿は原則としてMicrosoft Wordで2段組み、22字×40行で作成し、ファイルは電子メールに添付して本会事務局に送信してください。なお、原稿ファイルがWord以外で作成された場合は、使用したソフトをお知らせください。

手書きの原稿や、大容量（20MB以上）の写真を含む原稿ファイルはCD-R等に記録し、本会事務局に郵送してください。

本会事務局住所：〒030-0813 青森市松原二丁目8の2

電子メールアドレス：aomori-vm@aomori-juishikai.jp

2026年度

北里大学 公開講座

特別
講演

とわだ市民カレッジと共同開講

第1回 7月16日(木)

十和田市民文化センター 生涯学習ホール
18:40~20:10



今、北里柴三郎から
まなべる こと

学祖北里柴三郎博士曾孫
北里大学名誉教授・北里柴三郎記念館名誉館長
北里柴三郎博士大河ドラマ
誘致アドバイザー 北里 英郎



この講座は、あおもり
県民カレッジの単位と
して認められます。

単位数:16単位
学習分野:学術・教育

北里大学は北里柴三郎博士を学祖として仰ぎ、
北里精神は脈々と引き継がれています。



特別
講演

とわだ市民カレッジと共同開講

第2回 7月30日(木)

十和田市民文化センター 生涯学習ホール
18:30~20:00



シマウマ・ウシ・ヒト
~種を超えた応用~

2025年イグ・ノーベル賞受賞
「牛をしま模様にしてハエ半減」
農研機構 畜産研究部門 畜産施設管理研究領域
アニマルウェルフェアグループ
主任研究員 児嶋 朋貴

講座【全8講座】

期 間 令和8年7月16日(木)~9月17日(木)

会 場 北里大学獣医学部 111教室

●特別講演など一部、時間・場所が変わります。
(第1回講座・第2回講座/
十和田市民文化センター 生涯学習ホール)

受講料 無 料

事前の申し込みは必要ありません。
どなたでも気軽に受講できます。

全8講座の講師陣・講義内容・会場等の詳細については裏面を
ご覧ください。

お問い合わせ
北里大学公開講座実行委員会

(北里大学獣医学部内)

〒034-8628 十和田市東二十三番町35-1

電話 (0176)23-4371(代表)

いのちと環境を科学する
2026

主催 北里大学公開講座実行委員会

共催 北里大学獣医学部・十和田市教育委員会

2026年度 北里大学公開講座プログラム

いのちと環境を科学する2026

第1回 7月16日(木) 十和田市民文化センター 生涯学習ホール
18:40~20:10

開講式 18:30~18:40



今、北里柴三郎から まなべること

北里大学名誉教授・北里柴三郎記念館名誉館長
北里柴三郎博士大河ドラマ誘致アドバイザー

北里 英郎

特別講演

北里柴三郎は、熊本県小国町に生まれ、明治・大正・昭和初期まで、国民を病気から守ることに生涯を捧げました。ドイツにて「破傷風の血清療法」確立の偉業を成し遂げ、帰国後は、「雷親父」と多くの人々に慕われ、優れた部下を育てました。本日は、「柴三郎のひととなり」と現代に生きるその教えをご紹介します。

第2回 7月30日(木) 十和田市民文化センター 生涯学習ホール
18:30~20:00



シマウマ・ウシ・ヒト ～種を超えた応用～

農研機構 畜産研究部門 畜産施設管理研究領域
アニマルウェルフェアグループ 主任研究員

兒嶋 朋貴

特別講演

「ゾウの時間 ネズミの時間」という書籍をご存知でしょうか？本書で紹介されているように全く異なる動物に見えるのに種を超えた共通点があります。一方、シマウマのシマ模様のように、その動物固有の特徴もあります。本講座では、このような動物の不思議な共通点と相違点を他の動物に応用・拡張した研究について紹介します。

第3回 8月6日(木) 北里大学獣医学部 111教室
18:30~20:00



腸内細菌の一生 ～あなたの中のもうひとつの家族～

細胞分子機能学 教授

向井 孝夫

私たちは一生、自分一人で生きているわけではありません。誕生の瞬間の出会いから、乳児期のミルクが育む絆、そして人生の終焉まで、お腹の中の数百兆個の細菌たちは「もうひとつの家族」として共に歩み続けます。最新科学が解き明かす驚きの共生メカニズムを紐解きながら、健やかな明日と生命の循環について、共に考えてみませんか？

第4回 8月20日(木) 北里大学獣医学部 111教室
18:30~20:00



Q.犬や猫も高血圧になるんですか？ -A.なるんです。

小動物第1内科学 准教授

亀島 聡

犬や猫にも高血圧ってあるの？そういえば動物ってどうやって血圧を測るんだろう？いわれてみるとよくわからない不思議な獣医療の世界を、私の専門分野である循環器疾患の中から「高血圧症」にスポットをあてて皆様にご紹介しましょう。動物が示す高血圧の症状や人医学との違いなどをわかりやすくお話ししたいと思います。

第5回 8月27日(木) 北里大学獣医学部 111教室
18:30~20:00



東北地方の野生動物の被害と 青森県のツキノワグマの出没について

野生動物学 教授

進藤 順治

東北の豊かな自然には多くの野生動物が暮らす一方、近年様々な野生動物とヒトとの軋轢が発生し、ツキノワグマの場合は深刻な状況になっています。講演では、東北地域ごとの被害傾向の違いや特徴、また、青森県におけるツキノワグマの出没について過去から現在までの変遷を紹介します。

第6回 9月3日(木) 北里大学獣医学部 111教室
18:30~20:00



北里八雲牛ってなに？ ～草だけで牛を飼う、は 当たり前じゃない日本の畜産～

附属フィールトサイエンスセンター
環境保全型畜産研究部門 講師(八雲牧場)

小笠原 英毅

牛肉を食べる機会は鶏肉や豚肉より極端に少ないと思います。持続可能な畜産とは何でしょうか？私たちは100年先も畜産物を食べられるでしょうか。本講座では、みなさんと経済性も含めた持続可能な畜産(肉用牛)について考えながら、「草だけで牛を飼う」、単純そうでは実は複雑で面白い八雲牧場の取り組みを紹介します。

第7回 9月10日(木) 北里大学獣医学部 111教室
18:30~20:00



肥料は足りてる？ ～気候変動による土壌中の水と溶質(肥料)の 移動をニンニク栽培で考える～

土壌環境学 講師

落合 博之

近年の気候変動は青森県でも明らかな変化として表れており、融雪時期の早期化や、豪雨回数の増加、夏場の降雨日数の減少など農業を行う上でこれまで通りにはいかないことが増えています。そこで今回はニンニク栽培を題材として土壌中の水移動を基に溶質がどのように変動していくかを話ししながら肥料の話をします。時間があればナガイモ栽培の話もします。

第8回 9月17日(木) 北里大学獣医学部 111教室
18:30~20:00



狂 犬 病 ～脳を乗っ取る狂犬病ウイルスの正体～

獣医病理学 准教授

朴 天鎬

狂犬病ウイルスが体に入ってから脳へ到達するまでの流れや、脳に達したウイルスが体の外へ出ていくしくみについて、獣医病理学の視点からやさしく解説します。また、犬のヒゲや鼻を使った新しい調べ方(新規診断法)や、感染を防ぐための大切なポイントについて紹介します。

終了後 閉講式

●開講時間・会場にご注意ください！



メディバルグループ

MPアグロは
医薬品等卸売事業を展開する
メディバル(MP)グループの
一員として、元気とかがやきを
お届けします。



動物の健康は 人の健康につながる

- 動物用医薬品販売の全国ネットワークを駆使し、あらゆる動物の健康維持に貢献します。
- 安全な畜水産物の生産をサポートし、獣医療の発展と食の安全・安心に貢献します。



MPアグロ株式会社

本社 〒061-1274 北海道北広島市大曲工業団地6丁目2番地13
TEL 011(376)3860 FAX 011(376)3450

東京本部・岡山オフィス・福岡オフィス
札幌・函館・旭川・帯広(北見エリア)・釧路・青森・秋田・盛岡・山形・仙台・東京第一・東京第二
北関東・大阪第一・大阪第二・兵庫・岡山・広島・山口・鳥取・島根・松山・宇和島・高松・徳島
福岡第一・福岡第二・熊本・宮崎・鹿児島・鹿屋
札幌物流センター・帯広物流センター・盛岡物流センター
関東物流センター・御津物流センター
アニマルヘルスサポートセンター





守るとは、 真っ先に 動くことだ。

暮らしを守るとは、遠くから見守ることではない。

誰かが困ったとき、真っ先に動くことだ。

私たちがそう考えるのは、損保ジャパンの歴史の原点に、

明治26年に結成した「私設消防団」があったからです。

火事が起これば、誰よりも早く現場へ向かい、人々の暮らしを守る。

そんな火消しの精神は、いまでも私たちのなかに受け継がれています。

今日もどこかで、お客さまが困ったとき、真っ先に動けるように。

私たちには、全国に保険代理店という心強いパートナーがいます。

暮らしを守ることは、私たちだけでできることはありません。

損保ジャパンと保険代理店は、想いをひとつに、

これからも地域に寄り添い、安心や安全をお届けしていきます。

守るとは、真っ先に動くことだ。

今日も、その覚悟を胸に。

お客さま、社会、そして自分にとって。

損保ジャパン



HIKESHI DNA 2030 Project

「HIKESHI DNA 2030 Project」は、当社の原点である「火消しの精神」を今に受け継ぎ、地域と連携して「災害に強く、だれもが安心して暮らせる地域社会の実現」を目指すプロジェクトです。

損害保険ジャパン株式会社 団体・公務開発部 第二課

〒160-8338 東京都新宿区西新宿1-26-1

<https://www.sompo-japan.co.jp/>

損保ジャパン

meiji

明治アニマルヘルスは
狂犬病の予防啓発に取り組んでいます。

飼い主の
皆さまへ
向けて

リーフレット
「狂犬病について考えてみよう」



アニメーション
「狂犬病ワクチンを注射しましょう」



動画はこちら



明治アニマルヘルス株式会社
熊本市北区大窪一丁目6番1号

※本剤は獣医師等の処方箋・指示により使用すべき要指示医薬品です。ご使用の際は製品の添付文書をよくお読みください。



株式会社 アグロ ジャパン

MISSION

使命

動物を介して
食の生産に寄与 人の癒しに寄与

VISION

将来像

私たちは命に感謝し
心身ともに豊かな暮らしを創造し
人々を笑顔にすることを目指す



公益社団法人日本獣医師会の会員の皆様へ



サイバー保険特約のご案内

サイバー保険特約の概要

※獣医師賠償責任保険のオプションとして加入可能(本特約のみの加入不可)

業務遂行する上で被る可能性のある、サイバーセキュリティ被害を補償する保険特約です。

第三者への 賠償責任



サイバー攻撃、情報漏えい、システム管理などに起因して他人に経済的損害を与えた場合の賠償責任・争訟費用の補償

損害賠償金

協力費用

争訟費用

事故対応に かかる 自社の費用



サイバー攻撃、情報漏えいなどの発生に起因して生じる『事故調査』から『解決/再発防止』までの諸費用の補償

原因調査費用

見舞費用

データ復旧費用

etc

補償内容・保険料

(保険期間1年、一括払)

加入タイプ	プラン1	プラン2	プラン3
賠償責任保険金(期間中) (自己負担額10万円)	500万円	1,000万円	1億円
費用保険金(1事故・期間中) (縮小てん補割合90%)	100万円	300万円	3,000万円
年間保険料	8,000円	12,000円	24,000円

- このご案内は概要です。詳しい内容につきましてはパンフレットをご請求いただき、取扱代理店または損保ジャパン営業店までお問い合わせください。

<お問い合わせ先・取扱代理店>

株式会社安田システムサービス

〒163-1529 東京都新宿区西新宿1-6-1 新宿エルタワー29F
TEL: 03 (3340) 6497 FAX: 03 (3340) 5700
Mail: njkyousai@nichizei.com
ご不明な点がございましたら、Mailでもお問い合わせ可能です。



<引受保険会社>

損害保険ジャパン株式会社

団体・公務開発部第二課
〒160-8338 東京都新宿区西新宿1-26-1
TEL 03 (3349) 5402 (平日午前9時から午後5時)

(SJ21-01831 2021.6.29)

Gazing at the future

ZENOAQ

動物の価値を高めること。
それが、私たちの使命です。

 **日本全薬工業株式会社**
福島県郡山市安積町笹川字平ノ上1-1

www.zenoaq.com



今までも、これからも。 「生命の未来」のために尽くしたい。

獣医師・畜産用医薬品、ワクチン類、器具機材、
プレミックス製造販売総合商社

小田島商事株式会社

代表取締役社長 小田島 隆

本 社	岩手県花巻市卸町66番地	TEL 0198(26)4151
青森営業所	青森市問屋町2丁目13番18号	TEL 017(738)1224
八戸営業所	八戸市大字大久保字小久保尻17-4	TEL 0178(34)2284

● 営 業 所 一 覧 ●

花巻営業所	TEL 0198(26)4700	旭川営業所	TEL 0166(46)0270
大船渡営業所	TEL 0192(26)4740	札幌営業所	TEL 011(813)1300
横手営業所	TEL 0182(33)5404	帯広営業所	TEL 0155(58)1380
古川営業所	TEL 0229(26)4567	北海道物流センター	TEL 0155(58)1381
山形営業所	TEL 023(633)5333	釧路出張所	TEL 0154(31)5575
酒田出張所	TEL 0234(26)4666	プレミックス工場	TEL 0198(26)4726
福島営業所	TEL 024(553)6678	家畜衛生食品検査センター	TEL 0198(26)5375
		卸センター給油所	TEL 0198(26)4822

Technol

Smile&Honesty. 一人ひとりが未来のために。

はたらくを
もっと
もっと **楽** に、
楽しく。

東北化学薬品株式会社

TOHOKU CHEMICAL CO., LTD

OUR SERVICE

研究分野の試薬・消耗品・機器 トータルソリューションを提供する

食品分野

農業資材分野

ヘルスケア分野

臨床検査試薬分野

化学工業薬品分野



第21回 アジア獣医師会連合 (FAVA) 大会

アジアワンヘルス福岡宣言 2022

ワンヘルスは、動物と人の共生社会づくり、生物多様性や環境の保全などによって、地球や社会の持続的な発展を目指している。

現在、世界では、COVID-19、新型インフルエンザ、重症熱性血小板減少症候群 (SFTS) など人と動物の共通・新興感染症の国境を越えた発生や、薬剤耐性 (AMR) が大きな課題となっている。

このようなことから、FAVA 加盟国は、連携・協力してワンヘルスを実践しなければならない。

我々 FAVA 加盟獣医師会及び所属する獣医師は、ワンヘルスの先進地である福岡県において開催された第21回 アジア獣医師会連合 (FAVA) 大会の成果を踏まえ、「FAVA 戦略プラン 2021-2025」に基づくワンヘルスアプローチを一層発展させ、その実践活動をアジア・オセアニア地域から世界に向けて発信することを決意し、以下のとおり宣言する。

1. 新興・再興感染症を含む人と動物の共通感染症の予防及びまん延防止に万全を期するため、感染源、感染経路及び宿主対策についての調査・研究体制を整備するとともに、情報の共有に努める。
2. 薬剤耐性菌が医療と獣医療において重大な脅威となっていることから、抗菌剤の慎重かつ適正な使用を徹底し、薬剤耐性 (AMR) 対策を推進する。
3. 動物と人が共生する社会を構築するため、生物多様性の維持や地球環境の保全を積極的に推進する。
4. 獣医学教育の更なる整備及びワンヘルスアプローチによる国際連携により、WOAH (OIE) Day One Competencies (獣医師が具備すべき知識・技能・態度) を有する獣医師の育成に取り組む。
5. 医療関係団体、行政機関、市民団体及び大学、WVA、WOAH (OIE)、WHO、FAO、UNEP などの国際機関と協力し、ワンヘルスの課題解決と推進に取り組む。
6. アジアにおけるワンヘルスの課題への研究と児童、生徒及び市民に対するワンヘルス教育の普及のために、FAVA 活動の拠点を整備・強化する。



令和4年11月13日 ヒルトン福岡シーホークにて開催された「第21回 アジア獣医師会連合 (FAVA) 大会」にて調印。



日本獣医師会・獣医師会活動指針

—動物と人の健康は一つ。そして、それは地球の願い。—

- 1 地球的課題としての食料・環境問題に対処する上で、生態系の保全とともに、感染症の防御、食料の安定供給などの課題解決に向け、「人と動物の健康は一つと捉え、これが地球環境の保全に、また、安全・安心な社会の実現につながる。」との考え方（One World-One Health）が提唱され、「人と動物が共存して生きる社会」を目指すことが求められている。
- 2 一方、動物が果たす役割は、食料供給源としてのほか、イヌやネコなどの家庭動物が「家族の一員・生活の伴侶」として国民生活に浸透するとともに、動物が人の医療・介護・福祉や学校教育分野に進出し、また、生物多様性保全における野生動物の存在など、その担うべき社会的役割は重みを増すとともに、一層多様化してきている。
- 3 他方、国民生活の安全・安心や社会・経済の発展を期する上で、食の安全性の確保や口蹄疫、トリインフルエンザ、狂犬病等に代表される新興、再興感染症に対する備えとともに、家庭動物の飼育が国民生活に普及する中で動物の福祉に配慮した適正飼育の推進が、更には、地球環境問題としての生物多様性の保全や野生鳥獣被害対策を推進する上での野生動物保護管理に対する関心が高まってきている。
- 4 我々、獣医師は、「日本獣医師会・獣医師倫理綱領 獣医師の誓い — 95年宣言」が規定する専門職職業倫理の理念の下で、動物に関する保健衛生の向上と獣医学術の振興・普及を図ること等を通じ、食の安全性の確保、感染症の防御、動物疾病の診断・治療、更には、野生動物保護管理や動物福祉の増進に寄与するとの責務を担っている。
- 5 獣医師会は、高度専門職業人としての獣医師が組織する公益団体として、獣医師及び獣医療に対する社会的要請を踏まえ、国民生活の安全保障、動物関連産業界の発展による社会経済の安定、更には、地球環境の保全に寄与することを目的に、「動物と人の健康は一つ。そして、それは地球の願い。」を活動の理念として、国民及び地域社会の理解と信頼の下で、獣医師会活動を推進する。

【参 考】

「One World-One Health」とは、動物と人及びそれを取り巻く環境（生態系）は、相互につながっていると包括的に捉え、獣医療をはじめ関係する学術分野が「ひとつの健康」の概念を共有して課題解決に当たるべきとの考え。2004年に野生生物保全協会（WCS）が提唱した。また、国際獣疫事務局（OIE）は、2009年に「より安全な世界のための獣医学教育の新展開」に関する勧告において、動物の健康、人の健康は一つであり生態系の健全性の確保につながるとする新たな理念として「One World-One Health」を実行すべきである旨を提唱している。

令和8年7月1日
発行所 青森市松原二丁目8の2
公益社団法人 青森県獣医師会
TEL 017(722)5989
FAX 017(722)6010
印刷所 青森市幸畑松元78
青森コロニー印刷
TEL 017(738)2021
FAX 017(738)6753